

**Unica Campaign と Acoustic Campaign
の統合ガイド (IBM Marketing Cloud 用)**



目次

第 1 章. Unica Campaign と Acoustic Campaign の統合ガイド (IBM Marketing Cloud 用)	1
Unica Campaign と Acoustic Campaign の統合の概要.....	1
UBX および UBX Toolkit の概要.....	4
バージョン 11.0 へのアップグレード.....	5
統合の制限と依存関係.....	6
Unica Campaign と Acoustic Campaign の統合の構成.....	7
Unica Campaign、Acoustic Campaign、および UBX のための Provisioning の要件.....	9
Unica Campaign オフナー統合のための Acoustic Campaign 構成の要件.....	10
Acoustic Campaign で使用するための WebSphere の構成.....	12
WebSphere で UBX を使用するための構成.....	12
Acoustic Campaign で使用するための WebLogic の構成.....	13
Acoustic Campaign のためのユーザー・アカウントとデータ・ソースの構成.....	14
構成プロパティの設定.....	15
UBX で Unica Campaign エンドポイントをサブスクリバードとして登録する方法.....	25
統合のための UBX Toolkit のインストールと構成.....	26
統合のためのレスポンス・トラッキング・テーブルの作成.....	27
統合用の UBX の構成.....	28
オーディエンス情報の同期フィールドの設定.....	29
Unica Campaign と Acoustic Campaign の統合ログ.....	30
E メール: Unica Campaign と Acoustic Campaign の使用.....	31
Eメールの作成と送信.....	32
Eメール: Unica Campaign フローチャートでの Eメール・プロセスの構成.....	33
Eメール: テスト実行.....	41
Eメール: 実稼働実行.....	42
Eメール: レスポンス・トラッキング.....	43
SMS テキスト・メッセージング: Campaign と Acoustic Campaign の使用.....	45
SMS モバイル・メッセージングの有効化.....	46
SMS メッセージ送信の要件.....	46
SMS: SMS テキスト・メッセージの作成および送信.....	46
SMS: Unica Campaign フローチャートでの SMS プロセスの構成.....	47

SMS: テスト実行.....	52
SMS: 実稼働実行.....	53
SMS: レスポンス・トラッキング.....	55
Unica Campaign と Acoustic Campaign の間の SMS オプトインおよびオプトアウト同期.....	56
モバイル・プッシュ: Unica Campaign と Acoustic Campaign の使用.....	57
モバイル・アプリ・メッセージの有効化 (プッシュ通知).....	57
プッシュ: モバイル・プッシュ通知の作成および送信.....	58
プッシュ: Unica Campaign フローチャートでのプッシュ・プロセスの構成.....	59
プッシュ: テスト実行.....	64
プッシュ: 実稼働実行.....	65
プッシュ: レスポンス・トラッキング.....	67
統合のレスポンス・トラッキング・テーブル.....	68
レスポンスとコンタクトのマッピング.....	69
イベントとして使用可能な E メール・トラッキング・データ.....	70
イベントとして使用可能な SMS トラッキング・データ.....	71
イベントとして使用可能なモバイル・プッシュ・トラッキング・データ.....	71
統合データベース・テーブル、ETL、およびパーティショニング.....	72
イベント・タイプ.....	73
レポート ID.....	74
連絡抑止の理由.....	74
レスポンス・トラッキング・テーブルのデータの消去.....	75
イベントのダウンロードと処理でのマルチスレッドの実装.....	76

第1章. Unica Campaign と Acoustic Campaign の統合ガイド (IBM Marketing Cloud 用)

Unica Campaign のマーケティング・セグメンテーション・ツールと、IBM Marketing Cloud のメッセージング機能とが組み合わされます。

Unica Campaign と Acoustic Campaign の統合の概要

Unica Campaign と Acoustic Campaign の統合では、Unica Campaign のマーケティング・セグメンテーション・ツールと、IBM Marketing Cloud のメッセージング機能とが組み合わされます。

統合により何が提供されるか?

この統合により、デジタル・マーケティング担当者は、複数のチャネルでやり取りする機能、顧客対話を個別設定してトラッキングする機能、および機密性の高い個人データを保護する機能を活用できます。マーケティング担当者は、Eメール、SMS テキスト・メッセージング、およびモバイル・プッシュ・キャンペーンを通じて顧客に到達するために、特定のオーディエンスをターゲットとして指定できます。

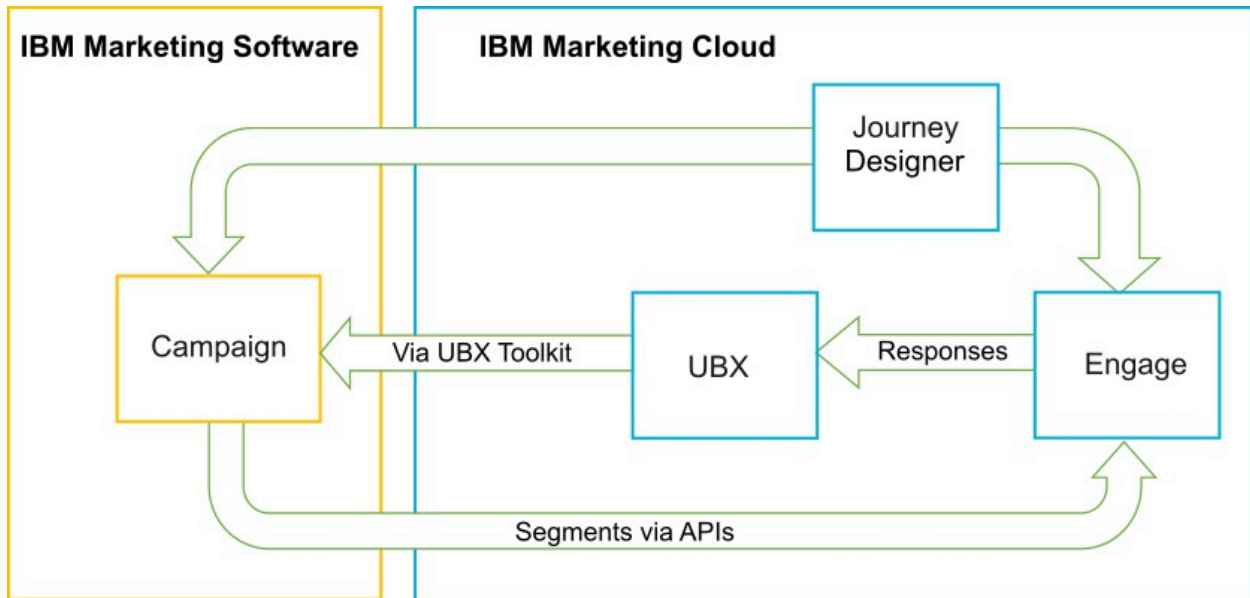
⚠ 重要: 統合により、プログラム、スコア設定、送信時刻の最適化などの IBM Marketing Cloud 機能を、デジタル・マーケティング担当者が使用できるようになるわけではありません。コンタクトの決定およびスコア設定に関するすべてのビジネス・ロジックは、Unica Campaign フローチャートで、あるいは Unica Campaign に結合されたコンタクト・ソースを直接操作するその他のシステムで使用する必要があります。

統合コンポーネント

統合には、以下のコンポーネントが関係しています。

- **Unica Campaign。** 通常は企業ファイアウォールの背後にインストールされる、オンプレミス・マーケティング・アプリケーション。
- **Acoustic Campaign。** デジタル・マーケティングおよびリード管理を提供するクラウド・ベース・サービス。
- **IBM UBX。** アプリケーション間でデータ交換するためのクラウド・ベース・サービス。
- **IBM UBX Toolkit。** オンプレミス・アプリケーション (Unica Campaign など) が UBX と対話するための手段を提供します。

これらのコンポーネントの相互運用の方法について、以下の図に示します。



Unica Campaign とは?

Unica Campaign は、マーケティング・データをファイアウォールの背後に保つことを望む組織のためのオンプレミス・ソリューションです。マーケティング担当者は、Unica Campaign のフローチャートを使用することにより、マーケティング・キャンペーンのためのターゲット・セグメントを作成します。フローチャートは、複数のデータベースやフラット・ファイルのデータを視覚的に作成したり組み合わせたり操作したりするための手段を提供します。例えば、単一のフローチャートで DB2 データベースから名前と住所をプルし、SQL データベースから購入履歴をプルし、Hive や Amazon Redshift などのビッグデータ・ソースから顧客ごとの設定を取得することができます。キャンペーン実行後、レスポンス・データを Campaign に戻して、その後の再ターゲット処理に使用することができます。

IBM Marketing Cloud とは?

IBM Marketing Cloud は、組み込みの分析機能とともに、Eメール、SMS、およびモバイル・プッシュを組み込んだ、デジタル・マーケティングとリード管理のソリューションを提供します。これは、Acoustic Campaign、UBX、および Journey Designer で構成されるクラウド・ベースのデジタル・マーケティング・プラットフォームです。

IBM UBX とは?


IBM Universal Behavior Exchange (UBX) は、HCL Commerce アプリケーションと IBM Business Partner アプリケーションの間の商業的相互作用において、個人とその振る舞いを識別するデータを交換するための手段を提供するクラウド・ベース・サービスです。

UBX は、さまざまなチャネルで発生するさまざまなイベントを認識します。例えば、Eメール通信の場合、受信者が Eメール・メッセージ内のリンクをクリックすると、1つのイベントが生成されます。サブスクリプション側アプリケーションがイベント・データを容易に解釈できるようにするため、各イベント・タイプが UBX に登録されています。

UBX に接続するための Unica Campaign の組み込み機能の概要

Unica Campaign には、Unica Campaign へのデータ・フローを改善する IBM Universal Behavior Exchange (IBM UBX) に接続するための組み込み機能があります。UBX ユーザー・インターフェースで Unica Campaign エンドポイントを登録できます。

Unica Campaign インストーラーは UBX エンドポイント登録ユーティリティーも <campaign_home> / tools の UBXTools フォルダーにインストールします。インストールされた UBXTools フォルダーには、Unica Campaign エンドポイントを UBX に登録するために必要なすべてのファイルがあります。

 **注:** オーディエンスをシンジケートする場合は、オーディエンス・パブリッシャーとオーディエンス・サブスクリプションで UBX Toolkit が引き続き必要になります。

UBX Toolkit とは?

UBX Toolkit は、Unica Campaign と Acoustic Campaign の統合をサポートするためにインストールおよび構成する必要のあるコンポーネントです。UBX Toolkit は、Unica Campaign が UBX と対話するための手段を提供します。この統合のコンテキストにおいて、Unica Campaign はイベント宛先 (イベント・コンシューマー・エンドポイント) です。Unica Campaign は、UBX Toolkit の助けにより UBX と接続します。

統合では、UBX Toolkit を利用することにより、Unica Campaign レベルで、Eメール、SMS、およびプッシュに対するレスポンスをトラッキングします。UBX Toolkit は、開く、クリックする、パウンスするなどのレスポンス・データを、Acoustic Campaign から UBX へ経路指定し、Unica Campaign に戻します。

IBM Journey Designer とは?

IBM Journey Designer は、IBM Marketing Cloud の一部です。これは統合自体の一部ではありませんが、Unica Campaign および Acoustic Campaign との併用が可能です。マーケティング・チームは、Journey Designer を使用することにより、自分たちのプログラムやカスタマー・ジャーニーのストーリーボードとして、視覚的に人を引き付ける、使い勝手の良いものを作成できます。複数のチームが、オンライン対話 (Eメールやモバイル・プッシュ) やオフライン対話 (ダイレクト・メールや店内イベント) で共同作業を実行することができます。それらの対話が、全体としてカスタマー・ジャーニーを構成します。Journey Designer のドキュメンテーションは別個に提供されており、Unica Campaign と Acoustic Campaign の統合の一部としてはカバーされていません。

マーケティング担当者が統合をどう使用するのか?

マーケティング担当者は、Unica Campaign を使用することにより、希望するオーディエンス・セグメントを選択するフローチャートを作成し、希望するチャネル (Eメール、SMS、またはプッシュ) のプロセス・ボックスを構成します。フローチャート実行時に、セグメンテーションおよびコンタクト・データが Unica Campaign から Acoustic Campaign データベースおよびコンタクト・リストにアップロードされます。次に Acoustic Campaign は、指定されたマーケット・セグメントにメッセージを送信します。マーケティング・キャンペーン実行後、Acoustic Campaign によりレスポンス・データがトラッキングされ、UBX および UBX Toolkit を介して Unica Campaign に返されます。

マーケティングの専門家は、以下の方法で統合された製品を使用します。

- Acoustic Campaign を使用することにより、E メール、SMS テキスト、またはモバイル・プッシュのメッセージ・テンプレートを作成します。
- Unica Campaign を使用することにより、オンプレミス・データベースやフラット・ファイルからデータをプルすることで、マーケティング・キャンペーンの対象となる個人を選択したりセグメント化したりします。例えば、持ち家所有の 30 歳から 34 歳までのすべての個人を検索します。
- Unica Campaign を使用することにより、選択したデータを Acoustic Campaign にアップロードして、E メール、SMS テキスト・メッセージング、またはモバイル・プッシュの各チャンネルで使用できるようにします。
- Unica Campaign を使用することにより、E メール・メッセージ、SMS メッセージ、またはモバイル・プッシュ・メッセージをパーソナライズします。例えば、Eメールの件名行を変更したり、メッセージ本体中の変数を、特定のテキストに置換したりします。
- Unica Campaign または Acoustic Campaign を使用することにより、「送信」を開始します。
- 完全自動メッセージングでは、フローチャート実行時に、選択されたオーディエンス・データを Unica Campaign が Acoustic Campaign にアップロードした時点でただちにメッセージが送信されるよう、プロセスを自動化できます。
- Unica Campaign の実行後、Unica Campaign を使用することにより、UBX Toolkit で Unica Campaign にダウンロードしたレスポンス・データに基づいて、レスポンスと非レスポンスのターゲット設定を再度行います。

⚠ 重要: 統合により、プログラム、スコア設定、送信時刻の最適化などの IBM Marketing Cloud 機能を、デジタル・マーケティング担当者が使用できるようになるわけではありません。コンタクトの決定およびスコア設定に関するすべてのビジネス・ロジックは、Unica Campaign フローチャートで、あるいは Unica Campaign に結合されたコンタクト・ソースを直接操作するその他のシステムで使用する必要があります。

UBX および UBX Toolkit の概要

UBX Toolkit は、Unica Campaign などのローカルにインストールされたアプリケーションが IBM Universal Behavior Exchange (UBX) と対話するための手段を提供します。オーディエンスをシンジケートする場合は、オーディエンス・パブリッシャーとオーディエンス・サブスクリプションで UBX Toolkit が必要になります。

UBX から Unica Campaign にイベント・データをダウンロードすることによるレスポンス・トラッキングをサポートするため、統合では UBX Toolkit を使用します。

Unica Campaign とデータベースを UBX API および HCL Commerce エコシステムに安全に接続するため、UBX Toolkit は企業ファイアウォールの背後にインストールします。Unica Campaign は、UBX Toolkit により UBX に接続します。

UBX では、UBX に登録されている独立したソフトウェア・アプリケーション間の動的関係がサポートされています。UBX に参加する各アプリケーションでは、提供するマーケティング・データのタイプや、カスタマーを特定するための手段がさまざまに異なっている場合があります。この統合のコンテキストでは、以下のように機能します。

- Acoustic Campaign はイベント・ソースです (E メールおよび SMS イベントの場合)。
- IBM Mobile Customer Engagement (Xtify) はイベント・ソースです (モバイル・プッシュ・イベントの場合)。
- Unica Campaign はイベント宛先です。これは、UBX においてイベント・サブスクライバー (イベント・コンシューマー) としての役割を果たします。

典型的なイベントとしては、開く、クリックする、バウンスする、というものがあります。

Unica Campaign は、イベント・データをイベント・サブスクライバーとして受け入れます。UBX Toolkit を使用してイベント・データをダウンロードし、それをローカル・データベースにインポートします。UBX Toolkit には、イベント・データをデータベースに格納する方法を指定するために使用できるサンプルのマッピング・ファイルが用意されています。

UBX Toolkit とそのドキュメンテーションについては、[統合のための UBX Toolkit のインストールと構成\(26 ページ\)](#)を参照してください。

! **重要:** Unica Campaign はイベント・コンシューマーであることに注意してください。UBX Toolkit ドキュメンテーションを使用する場合、イベント・コンシューマーに関する指示に従ってください。オーディエンス・エンドポイントに関する指示は適用されません。

バージョン 11.0 へのアップグレード

以前のバージョンの Unica Campaign からアップグレードして UBX ツールキットを使用する場合は、Unica Campaign のネイティブの UBX 機能を使用して Acoustic Campaign と統合できるようになりました。


Unica Campaign には、IBM Universal Behavior Exchange (IBM UBX) に接続するための組み込み機能があります。Unica Campaign には、IBM UBX に接続してコンタクトとレスポンスの履歴トラッキングのイベント・データを取り出すのに必要なすべての構成やユーティリティーが用意されています。Unica Campaign によって、IBM Marketing Cloud のイベント (E メール送信、E メール・オープン、E メール・リンク・クリック、E メール・バウンス、SMS 送信、対話 SMS など) をトラッキングできるようになりました。Unica Campaign では、E メール、プッシュ、SMS のチャネルに関する IBM Marketing Cloud と IBM Mobile Push Notification (旧称: Xtify Mobile Push Notification) のすべてのイベントをダウンロードして使用することも可能です。

バージョン 11.0 に既にアップグレードした場合は、以下のシナリオを検討してください。

表 1. Unica Campaign バージョン 11.0 のアップグレード・シナリオ

10.0.0.x または 10.1.x.x からのアップグレード	説明
Unica Campaign と Accelerator	E メール、SMS、プッシュ通知を Acoustic Campaign に送信するために Unica Campaign と Accelerator を使用していた場合は、バージョン 11.0 へのアップグレード後に、Unica Campaign で、E メール、SMS、プッシュのプロセス・ボックスを使用して、メッセージを Acoustic Campaign に送信できます。

表 1. Unica Campaign バージョン 11.0 のアップグレード・シナリオ (続く)


10.0.0.x または 10.1.x.x からのアップグレード	説明
Unica Campaign と UBX Toolkit	<p>Acoustic Campaign で生成されたイベントをダウンロードするために UBX Toolkit を使用していた場合は、バージョン 11.0 へのアップグレード後に、Unica Campaign を使用してイベントをダウンロードできます。</p> <p>Unica Campaign を使用してイベントをダウンロードするには、以下の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カスタム・エンドポイント・タイプのエンドポイントでサブスクライブしていたすべてのイベントをアンサブスクライブします。そのエンドポイントを削除することもできます。 2. Unica Campaign タイプの新しいエンドポイントを作成し、IBM Unica Campaign でサポートされているイベントをサブスクライブします。詳しくは、UBX で Unica Campaign エンドポイントをサブスクライバーとして登録する方法(25 ページ) を参照してください。 3. Unica Campaign で UBX を構成し、Unica Campaign でそのエンドポイントの権限鍵を追加します。 4. Unica Campaign の構成が完了したら、再びイベントをサブスクライブします。イベント・ダウンロード・スケジュール構成に基づいて、Unica Campaign スキーマ内の別のテーブルにイベントがダウンロードされるようになります。そのテーブルのデータを照会して、Unica Campaign のフローチャートで使用できます。詳しくは、『Unica Campaign システム・テーブル・ガイド』を参照してください。 <p> 注: UBX Toolkit で作成されたテーブルのデータは、Unica Campaign によって移行されません。ただし、そのテーブルのデータを使用することは引き続き可能です。</p>


統合の制限と依存関係

IBM Marketing Cloud のための Unica Campaign と Acoustic Campaign の統合では、以下の制限と依存関係があります。

- 統合には、以下の製品が必要です。
 - Unica Campaign バージョン 10.0 以降 (ローカル・インストール)
 - IBM Marketing Cloud

- IBM Universal Behavior Exchange (UBX)
- IBM UBX Toolkit バージョン 1.2 以降 (ローカル・インストール)
- この統合をデプロイする前に、入手可能なすべてのホット・フィックスを適用してください。
- チャンネル (E メール、SMS、およびプッシュ) ごとに 1 つの柔軟なデータベースを使用します。

 **注:** 統合環境で E メール・チャンネル、SMS チャンネル、およびプッシュ・チャンネルを使用する場合は、チャンネルごとに別のデータベースを使用してください。

 **注:** Unica Campaign と Acoustic Campaign の統合では、Acoustic Campaign の柔軟な (キーなし) データベースと制限された (キー型) データベースがサポートされます。

- Unica Campaign v10 の初期リリースにおいて、Acoustic Campaign とのオファー統合はサポートされていません。
- 統合は以下の言語に限定されています: 英語、フランス語、ドイツ語、日本語、ポルトガル語、中国語 (簡体字)、スペイン語。
- Unica Campaign において、Acoustic Campaign Send Time Optimization (STO) はサポートされていません。
- Unica Campaign ユーザーは、フローチャート・パレットで Engage プロセス・ボックス (E メール、SMS、プッシュ) のすべてを表示できます。しかし、IBM Marketing Cloud のサブスクリプションがない限り、それらのプロセス・ボックスを使用することはできません。
- Acoustic Campaign 組織と Unica Campaign パーティションの間には 1 対 1 の関係があります。パーティションごとに Acoustic Campaign 組織が 1 つのみ存在します (プロビジョニング時に定義)。
- SMS メッセージを送信するには、IBM Marketing Cloud 用の SMS メッセージングを購入する必要があります。また、SMS メッセージングをサポートする Acoustic Campaign アカウントが IBM からプロビジョニングされていなければなりません。
- モバイル・アプリ・メッセージ (プッシュ) を送信するには、IBM Marketing Cloud アカウントがモバイル・プッシュ対応でなければならず、IBM Marketing Cloud でモバイル・アプリが実装されていなければなりません。

Unica Campaign と Acoustic Campaign の統合の構成

Campaign と Acoustic Campaign の統合を成功させるためには、Unica Campaign、Acoustic Campaign、IBM UBX、および IBM UBX Toolkit の各製品を構成する必要があります。

統合を有効にして構成する前に、以下の前提条件を満たす必要があります。

- IBM プロビジョニング・チームがコンポーネントをプロビジョニングする必要があります。[Unica Campaign、Acoustic Campaign、および UBX のための Provisioning の要件\(9 ページ\)](#) を参照してください。
- 必要な情報を Acoustic Campaign プロビジョニング・チームに提供する必要があります。[Unica Campaign オファー統合のための Acoustic Campaign 構成の要件\(10 ページ\)](#) を参照してください。

Unica Campaign と Acoustic Campaign の統合を構成するには、以下の手順を実行します。

Unica Campaign と Acoustic Campaign の統合を詳しく理解するために、次のビデオも参照してください。

Unica Campaign と IBM Watson Campaign Automation の構成

表 2. 統合構成のタスク


ステップ	タスク	詳細
1	Unica Campaign Web アプリケーション・サーバーで、Acoustic Campaign との通信と UBX との通信を構成します。	<ul style="list-style-type: none"> • Acoustic Campaign で使用するための WebSphere の構成(12 ページ) • Acoustic Campaign で使用するための WebLogic の構成(13 ページ) • WebSphere で UBX を使用するための構成(12 ページ)
2	Acoustic Campaign 統合サービスにアクセスできるデータ・ソースでの、Unica Platform ユーザー・アカウントを構成します。	Acoustic Campaign のためのユーザー・アカウントとデータ・ソースの構成(14 ページ) を参照してください。
3	Unica Campaign パーティション構成の設定値を調整して、認証とデータ交換を制御します。	構成プロパティの設定(15 ページ) を参照してください。
4	UBX で、UBX からイベントをダウンロードするサブスクライバーとして Unica Campaign エンドポイントを登録します。	UBX で Unica Campaign エンドポイントをサブスクライバーとして登録する方法(25 ページ) を参照してください。
6	UBX Toolkit を使用してレスポンス・トラッキング・テーブルを作成することにより、Unica Campaign がレスポンス・データにアクセスできるようにします。  注: Unica Campaign バージョン 10.0.0.1 以上を使用している場合、この手順は当てはまりません。	統合のためのレスポンス・トラッキング・テーブルの作成(27 ページ) を参照してください。
5	Acoustic Campaign から Unica Campaign へのレスポンス・トラッキングをサポートするため、UBX Toolkit をインストールし、構成します。	統合のための UBX Toolkit のインストールと構成(26 ページ) を参照してください。
7	Acoustic Campaign から Unica Campaign へのレスポンス・トラッキングをサポートするため、イベント・プロデューサー・エンドポイントを構成し、イベントに対して Unica Campaign をサブスクライブします。	統合用の UBX の構成(28 ページ) を参照してください。
8	Acoustic Campaign で IBM Marketing Cloud への E メール・メッセージを有効にします。	Eメールの作成と送信(32 ページ) を参照してください。
9 (オプション)	IBM Marketing Cloud 用に、Acoustic Campaign で SMS メッセージを有効にします。	SMS モバイル・メッセージングの有効化(46 ページ) を参照してください。

表 2. 統合構成のタスク (続く)

ステップ	タスク	詳細
10 (オプション)	IBM Marketing Cloud 用に、Acoustic Campaign でモバイル通知を有効にします。	モバイル・アプリ・メッセージの有効化(プッシュ通知)(57ページ) を参照してください。

これらのステップが完了すれば、統合の使用準備ができています。Unica Campaign ユーザーは、フローチャート作成を開始し、キャンペーンのためのターゲット・セグメントを選択することができます。チャンネルごとに、ユーザーは、フローチャート内に E メール、SMS、またはプッシュ・プロセスを構成します。

Unica Campaign、Acoustic Campaign、および UBX のための Provisioning の要件

管理者が統合を構成するには、その前に、IBM Provisioning で統合のために Acoustic Campaign および UBX を準備する必要があります。Unica Campaign についても、統合のために構成がいくらか必要です。

IBM Provisioning から管理者に提供される情報

統合を構成する管理者は、以下の情報を必要とします。これは、IBM Provisioning から提供されます。

- 顧客が Acoustic Campaign にアクセスするために使用するサーバーのホスト名、SSL ポート番号、および別名。例:https://engage1.silverpop.com:443。Unica Campaign 管理者は、Acoustic Campaign で使用できるよう WebSphere を構成するためにこの情報を必要とします。
- クライアント・リフレッシュ・トークン: これは、Acoustic Campaign がプロビジョニングされた際に Acoustic Campaign 組織管理者 (統合ユーザー) に E メールで送信されたものです。Unica Campaign 管理者は、データ・ソースを構成するためにこの情報を必要とします。
- Acoustic Campaign クライアント ID、Acoustic Campaign クライアント・シークレット、Acoustic Campaign FTP、および Acoustic Campaign クライアント・リフレッシュ・トークンに関連する資格情報 (ログインおよびパスワード)。Unica Campaign 管理者は、データ・ソースを構成するためにこの情報を必要とします。
- UBX アカウント用に確立されている UBX API URL。UBX Toolkit 管理者は、config.properties ファイル (ubx.api.service.url=http://<server-name>:<port>) を構成するためにこの値を必要とします。

以下のセクションでは、各コンポーネントのプロビジョン方法について詳しく説明します。

Unica Campaign


IBM 認定システム・インテグレーターまたは Unica 管理者が以下の操作を実行します。

- Unica Marketing Platform 内に、Acoustic Campaign 組織が使用するためのパーティションが定義されます。例:partition1
- 統合ユーザー (システム管理者アカウント) が Unica Marketing Platform 内で定義されます。例:asm_admin

Acoustic Campaign プロビジョニング

IBM Provisioning チームは、Acoustic Campaign について以下のアクションが完了していることを確認します。

- プライマリー・ユーザー (組織管理者) が統合ユーザーとして指定されている。これは、Unica Campaign で定義されている統合ユーザーと同じ場合もあれば、そうでない場合もあります。
- Unica Campaign パーティションに対して「**Unica Campaign 統合**」が有効になっている。プロビジョニング中に、E メールが Acoustic Campaign 統合ユーザーに送信されます。その E メールには、クライアント・リフレッシュ・トークンが含まれています。Unica Campaign 管理者は、ユーザー・アカウントとデータ・ソースを構成するためにそれを必要とします。
- Acoustic Campaign 組織の「**Marketing データベース ID**」に基づいて、Acoustic Campaign に対して「**UBX 統合**」が有効になっている。

 **注:** 複数のチャネルを使用する場合は、どのチャネルのデータベース ID を指定しても構いません。Acoustic Campaign は、Unica Campaign で使用するために、すべてのデータベースから UBX にイベントを発行します。

- **Unica Campaign** アプリケーションに対して「**アカウント・アクセスの追加**」が有効になっている。


IBM UBX プロビジョニング

IBM Provisioning により、UBX アカウントが作成され、プロビジョニングされます。

アカウントがない場合は、UBX アカウント・プロビジョニング・チームに E メール ubxprovisioning@wwpdl.vnet.ibm.com でお問い合わせください。

IBM Provisioning により、IBM UBX について以下のアクションが完了します。

- Unica Campaign がエンドポイントとして登録される。
- E メールについてイベント・タイプが登録される。
- SMS および Push についてイベント・タイプが登録される (組織でそれらの機能を購入した場合)。
- Acoustic Campaign の柔軟なデータベースの 1 つがエンドポイントとして登録されます。


 **注:** 各チャネルに使用しているデータベースのどれを登録しても構いません。Acoustic Campaign は、セットアップで使用されているすべてのデータベースからイベントを発行します。

十分にプロビジョニングされたアカウントには、以下の要素が含まれます。

- UBX ユーザー・アカウント (UBX ユーザー・インターフェースにログインするための資格情報を含む)。
- 外部 UBX API を呼び出すための URL。
- Unica Campaign 用のエンドポイント・レベルの UBX 認証鍵。(注: アカウント・レベルの UBX 認証鍵は不要です。)


Unica Campaign オファー統合のための Acoustic Campaign 構成の要件

Unica Campaign オファーは、Acoustic Campaign で使用可能です。統合を有効にするには、必要な情報を Acoustic Campaign プロビジョニング・チームに提供する必要があります。

 **注:** Unica Campaign オファー統合でサポートされているのは、追跡中のハイパーリンク、クリックストリーム、ファイルのダウンロードだけです。

情報交換

Unica Campaign と Acoustic Campaign が統合されている場合、Campaign からのオファー情報が、Acoustic Campaign によって E メールで使用されます。ユーザーが Acoustic Campaign で E メール・テンプレートを構成し、その E メール・テンプレート内の動的コンテンツ・リンクに Unica Campaign のオファーを接続すると、そのオファー情報を求める API 呼び出しがブラウザから Unica Campaign サーバーに送信されます。この通信の処理には、EasyXDM が使用されます。

 **重要:** クラウドの Acoustic Campaign サーバーからオンプレミスの Unica Campaign サーバーへの API 呼び出しはないので、ファイアウォールを変更する必要はありません。

統合の有効化

このフィーチャーを有効にするには、以下の情報を Acoustic Campaign プロビジョニング・チームに提供する必要があります。Acoustic Campaign プロビジョニング・ユーザーは、「設定」>「組織の設定」>「統合」>「Unica Campaign 統合」から Acoustic Campaign を有効にできます。

Unica Campaign の統合を有効にする

はい

Unica Campaign API の URL


例: `https://camel09.in.ibm.com:9080/Campaign/jsp/engage/engageHome.jsp`

`<CAMPAIGN_URL>/jsp/engage/engageHome.jsp`

Campaign のパーティション名

PartitionName


例:partition1

 **注:** パーティションは、Acoustic Campaign 組織 1 つにつき 1 つのみサポートされます。

Unica Campaign ユーザー名

Unica Campaign 管理ユーザー。

例:asm_admin

 **注:** Unica Campaign または Unica Platform を Tivoli または SiteMinder のログイン情報を使用して構成した場合、API URL は `http://<Tivoli_Host>/<Campaign_JUNCTION>/Campaign/jsp/engage/engageHome.jsp` です。例:

`https://eagle81.in.ibm.com/tam10/Campaign/jsp/engage/engageHome.jsp`

または `http://<SITEMINDER_HOST>/Campaign/jsp/engage/engageHome.jsp` 例:

`http://pnqsm01.in.ibm.com/Campaign/jsp/engage/engageHome.jsp`

Acoustic Campaign で使用するための WebSphere の構成

Campaign と Acoustic Campaign の間の統合の構成には、その作業の一部として、Campaign Web アプリケーション・サーバーを、Acoustic Campaign と通信できるように構成することが含まれます。Campaign が WebSphere Application Server (WAS) を Web アプリケーション・サーバーとして使用する場合、以下の手順を実行します。

この作業を実行する前に、以下の手順を実行します。

- Campaign が、すべての通信で SSL を使用するように構成されていなければなりません。手順については、「Unica Marketing Platform 管理者ガイド」を参照してください。
- 顧客が Acoustic Campaign にアクセスするために使用するサーバーのホスト名、SSL ポート番号、および別名を知っておく必要があります。

以下の手順を実行することにより、IBM Marketing Cloud の証明書を WebSphere Application Server にインポートします。

Campaign が WebSphere Application Server クラスターにデプロイされている場合は、Acoustic Campaign 証明書をクラスターの各ノードにインポートする必要があります (以下の手順を繰り返します)。

この手順では、WebSphere Application Server を再始動することが必要になることに注意してください。

1. WebSphere Application Server 管理コンソールにログインします。
2. 「**セキュリティ**」を展開し、「**SSL 証明書と鍵の管理**」をクリックします。
3. 「**構成設定**」の「**エンドポイント・セキュリティ構成の管理**」をクリックします。
4. 該当するアウトバウンド構成を選択して、**(セル):<campaign-web-app-server>Node02Cell:(ノード):<campaign-web-app-server>Node02** 管理スコープに達するようにします。
5. 「**関連項目**」の下で、「**鍵ストアおよび証明書**」をクリックして、**NodeDefaultTrustStore** 鍵ストアをクリックします。
6. 「**追加プロパティ**」の下で、「**署名者証明書**」および「**ポートから取得**」をクリックします。
7. 「**ホスト**」フィールドで、顧客が使用している Acoustic Campaign ホストのホスト名、SSL ポート番号、および別名を指定します。

例えば、Acoustic Campaign を使用する顧客が <https://engage1.silverpop.com:443> を使用している場合、「**ホスト名**」には `engage1.silverpop.com`、「**ポート**」には `443` を入力します。

8. 「**署名者情報の取得**」をクリックします。
9. 証明書情報が信頼できる証明書のものであることを確認します。
10. 「**適用**」をクリックし、「**保存**」をクリックします。
11. WebSphere Application Server を再始動します。

[Unica Campaign と Acoustic Campaign の統合の構成\(7 ページ\)](#) を参照してください。

WebSphere で UBX を使用するための構成

Unica Campaign と IBM UBX の間の統合の構成には、その作業の一部として、Unica Campaign Web アプリケーション・サーバーを、UBX と通信できるように構成することが含まれます。Campaign が WebSphere Application Server (WAS) を Web アプリケーション・サーバーとして使用する場合、以下の手順を実行します。

顧客が IBM UBX にアクセスするために使用するサーバーのホスト名、SSL ポート番号、および別名を知っておくことが必要です。

以下の手順を実行することにより、IBM Marketing Cloud の証明書を WebSphere Application Server にインポートします。

Campaign が WebSphere Application Server クラスターにデプロイされている場合は、Acoustic Campaign 証明書をクラスターの各ノードにインポートする必要があります (以下の手順を繰り返します)。

この手順では、WebSphere Application Server を再起動することが必要になることに注意してください。

1. WebSphere Application Server 管理コンソールにログインします。
2. 「セキュリティ」を展開し、「SSL 証明書と鍵の管理」をクリックします。
3. 「構成設定」の「エンドポイント・セキュリティ構成の管理」をクリックします。
4. 該当するアウトバウンド構成を選択して、(セル):<campaign-web-app-server>Node02Cell:(ノード):<campaign-web-app-server>Node02 管理スコープに達するようにします。
5. 「関連項目」の下で、「鍵ストアおよび証明書」をクリックして、NodeDefaultTrustStore 鍵ストアをクリックします。
6. 「追加プロパティ」の下で、「署名者証明書」および「ポートから取得」をクリックします。
7. 「ホスト」フィールドで、顧客が使用している Acoustic Campaign ホストのホスト名、SSL ポート番号、および別名を指定します。
8. 「署名者情報の取得」をクリックします。
9. 証明書情報が信頼できる証明書のものであることを確認します。
10. 「適用」をクリックし、「保存」をクリックします。
11. WebSphere Application Server を再起動します。

Acoustic Campaign で使用するための WebLogic の構成

Unica Campaign と Acoustic Campaign の間の統合の構成には、その作業の一部として、Unica Campaign Web アプリケーション・サーバーを、Acoustic Campaign と通信できるように構成することが含まれます。Unica Campaign が WebLogic を Web アプリケーション・サーバーとして使用する場合、以下の手順を実行します。

この作業を実行する前に、Unica Campaign が、すべての通信で SSL を使用するように構成されていなければなりません。手順については、「Unica Marketing Platform 管理者ガイド」を参照してください。

このタスクでは、Unica Campaign と Acoustic Campaign の間の通信を有効にするため、WebLogic でホスト名検証機能をオフにする方法について説明します。追加のガイダンスが必要な場合は、WebLogic のドキュメンテーションを参照してください。

1. スタンドアロンの SSL クライアントを使用する場合、コマンド・ラインまたは API でホスト名検証機能を設定する必要があります。SSL クライアントのコマンド・ラインで、以下の引数を入力して、ホスト名検証機能をオフにします。
 -Dweblogic.security.SSL.ignoreHostnameVerification=true
2. 他のすべての場合は、WebLogic Server Administration Console を使用することによって、ホスト名検証機能をオフにします。

- a. まだ実行していない場合は、管理コンソールの「チェンジ・センター」で、「**ロックして編集**」をクリックします (WebLogic ドキュメンテーションの「チェンジ・センターの使用」を参照)。
- b. コンソールの左側ペインで、「**環境**」を展開し、「**サーバー**」を選択します。
- c. ホスト名検証機能を無効にするサーバーの名前をクリックします。
- d. 「**構成**」 > 「**SSL**」を選択し、ページ下部にある「**詳細**」をクリックします。
- e. 「**ホスト名の検証**」フィールドを「**なし**」に設定します。
- f. 「**保存**」をクリックします。
- g. それらの変更内容をアクティブにするため、管理コンソールのチェンジ・センターで「**変更のアクティブ化**」をクリックします。
- h. 即座に有効にはならない変更もあります。一部の更新では再始動が必要です (WebLogic ドキュメンテーションの「チェンジ・センターの使用」を参照)。

[Unica Campaign と Acoustic Campaign の統合の構成\(7 ページ\)](#) を参照してください。

Acoustic Campaign のためのユーザー・アカウントとデータ・ソースの構成

Unica Campaign が Acoustic Campaign にアクセスできるようにするため、Unica Campaign 管理者は、Acoustic Campaign 統合サービスにアクセスするための資格情報によりユーザー・アカウントを構成した後、そのアカウント下でデータ・ソースを定義する必要があります。

この作業を完了するには、データ・ソースごとに Acoustic Campaign 資格情報 (ログインおよびパスワード) が必要です。その情報は、Acoustic Campaign 組織管理者または IBM Provisioning から提供可能です。

これは、Unica Campaign 管理者が実行する 1 回限りのタスクです。以下にその手順の要約を示します。詳細な情報が必要な場合は、「Unica Marketing Platform 管理者ガイド」を参照してください。

1. Unica にログインし、「**設定**」 > 「**ユーザー**」を選択します。
2. Acoustic Campaign サーバーへの接続を許可されたユーザー・アカウントの名前をクリックします。例: **asm_admin**。
3. ページの下部にある「**データ・ソースの編集**」リンクをクリックします。
4. 「**新規追加**」をクリックし、フォームにデータを入力して以下のデータ・ソースを作成します。データ・ソースが既に存在する場合は、各データ・ソースをクリックし、それを編集することにより、欠落している情報を指定します。

データ・ソースの詳細	注:
データ・ソース: ENGAGE_CLIENT_ID_DS データ・ソース・ログイン: ClientID (または空でない任意のストリング) データ・ソース・パスワード: <CLIENT_ID>	これは Acoustic Campaign クライアント ID データ・ソースです。 パスワードは Acoustic Campaign 組織管理者から入手できます。
データ・ソース: ENGAGE_CLIENT_SECRET_DS データ・ソース・ログイン: ClientSecret (または空でない任意のストリング)	これは、Acoustic Campaign クライアント・シークレット・データ・ソースです。

データ・ソースの詳細	注:
データ・ソース・パスワード:<CLIENT_SECRET>	パスワードは Acoustic Campaign 組織管理者から入手できます。
データ・ソース: ENGAGE_CLIENT_REF_TOK_DS データ・ソース・ログイン: ClientRefTok (または空でない任意のストリング) データ・ソース・パスワード:<CLIENT_REFRESH_TOKEN>	これは、Acoustic Campaign クライアント・リフレッシュ・トークン・データ・ソースです。 クライアント・リフレッシュ・トークン Login のパスワードは、Eメールにより Acoustic Campaign 組織管理者 (またはプロビジョニング時に Acoustic Campaign で「アカウント・アクセスの追加」により指定されたユーザー) に提供されています。
データ・ソース: ENGAGE_FTP_DS データ・ソース・ログイン:<FTP_LOGIN> データ・ソース・パスワード:<FTP_PASSWORD>	Acoustic Campaign FTP データ・ソースから、Unica Campaign と Acoustic Campaign の間の FTP 通信のための資格情報が提供されます。 ログインおよびパスワードは、Acoustic Campaign で割り当てられています。それらは、Acoustic Campaign 組織管理者から入手できます。

5. 「変更を保存」と「OK」をクリックします。

ユーザー・アカウントおよびデータ・ソースの名前は、Acoustic Campaign パーティション設定値で指定されている構成値と正確に一致していなければなりません。「設定」>「構成」を選択し、[Campaign | partitions | partition\[n\] | Acoustic Campaign\(16 ページ\)](#) に移動して、値が一致していることを確認してください。

構成プロパティの設定

Unica Campaign、Acoustic Campaign、IBM UBX の間の認証やデータ交換を制御する構成プロパティを設定する必要があります。

構成プロパティにアクセスするには、「設定」>「構成」を選択します。

以下の構成プロパティを設定します。

- [Campaign | partitions | partition\[n\] | Acoustic Campaign\(16 ページ\)](#)

アプリケーションには、IBM Universal Behavior Exchange (IBM UBX) に接続するための組み込み機能があります。この機能を使用するには、以下の構成プロパティを設定する必要があります。

- [Campaign | partitions | partition\[n\] | Acoustic Campaign | contactAndResponseHistTracking\(20 ページ\)](#)
- [Campaign | partitions | partition\[n\] | UBX\(22 ページ\)](#)
- [Campaign | partitions | partition\[n\] | UBX | Event Download Schedule\(22 ページ\)](#)

- [Campaign | Campaign Rest API フィルター\(23 ページ\)](#)
- [Campaign | proxy\(24 ページ\)](#)

Campaign | partitions | partition[n] | Acoustic Campaign

これらのプロパティは、Unica Campaign と Engage を統合した場合に、両製品の間の認証とデータ交換を制御します。

これらのプロパティを使用するには、「設定」 > 「構成」を選択します。Unica Campaign のインストール済み環境に複数のパーティションがある場合は、統合を使用するパーティションごとにこれらのプロパティを設定します。

サービス URL

構成カテゴリー

Campaign | partitions | partition[n] | Acoustic Campaign

説明

「サービス URL」は、Unica Campaign が Acoustic Campaign アプリケーションにアクセスできる URL を示します。この値は、Acoustic Campaign 組織の管理者から提供してもらう必要があります。

デフォルト値

<なし>

例

<https://engageapi.abc01.com/>

OAuth URL Suffix

構成カテゴリー

Campaign | partitions | partition[n] | Acoustic Campaign

説明

「OAuth URL Suffix」は、Acoustic Campaign API の認証トークンを指定します。

デフォルト値

oauth/token

API URL Suffix

構成カテゴリー

Campaign | partitions | partition[n] | Acoustic Campaign

説明

この「API URL Suffix」に XMLAPI を設定すると、Unica Campaign が Acoustic Campaign XML API を使用できるようになります。これは、デフォルト値の設定にしておくことがベスト・プラクティスです。

デフォルト値

XMLAPI

Platform User with Data Sources for Acoustic Campaign Credentials**構成カテゴリ**

Campaign | partitions | partition[n] | Acoustic Campaign

説明

「Platform User with Data Sources for Acoustic Campaign Credentials」は、Acoustic Campaign サーバーへの接続が許可されている Unica Platform ユーザー・アカウントの名前を示します。このユーザー・アカウントは、Acoustic Campaign 資格情報を提供するデータ・ソースを持っています。通常は、asm_admin を使用します。

デフォルト値

デフォルト値が定義されていません。

有効な値

Acoustic Campaign 統合のための資格情報のデータ・ソースを持つ Unica Platform ユーザー・アカウント。

Data Source for Client ID**構成カテゴリ**

Campaign | partitions | partition[n] | Acoustic Campaign

説明

「Data Source for Client ID」値は、Acoustic Campaign サーバーに接続するユーザー・アカウント (**Platform User with Data Sources for Acoustic Campaign Credentials**) 用に作成された Acoustic Campaign クライアント ID のデータ・ソース名と正確に一致する必要があります。言い換えると、この値は、Unica Platform ユーザーのデータ・ソースとしてセットアップされたものと一致する必要があります。これは、デフォルト値の設定にしておくことがベスト・プラクティスです。

デフォルト値

ENGAGE_CLIENT_ID_DS

クライアント秘密鍵のデータ・ソース (Data Source for Client Secret)**構成カテゴリ**

Campaign | partitions | partition[n] | Acoustic Campaign

説明

「Data Source for Client Secret」値は、Acoustic Campaign サーバーに接続するユーザー・アカウント (**Platform User with Data Sources for Acoustic Campaign Credentials**) 用に作成された Acoustic Campaign クライアント秘密鍵のデータ・ソース名と正確に一致する必要があります。これは、デフォルト値の設定にしておくことがベスト・プラクティスです。

デフォルト値

ENGAGE_CLIENT_SECRET_DS

Data Source for Client Refresh Token

構成カテゴリ

Campaign | partitions | partition[n] | Acoustic Campaign

説明

「Data Source for Client Refresh Token」値は、Acoustic Campaign サーバーに接続するユーザー・アカウント (**Platform User with Data Sources for Acoustic Campaign Credentials**) 用に作成された Acoustic Campaign クライアント・リフレッシュ・トークンのデータ・ソース名と正確に一致する必要があります。これは、デフォルト値の設定にしておくことがベスト・プラクティスです。

デフォルト値

ENGAGE_CLIENT_REF_TOK_DS

Data Source for File Transfer Credentials

構成カテゴリ

Campaign | partitions | partition[n] | Acoustic Campaign

説明

「Data Source for File Transfer Credentials」は、Campaign と Acoustic Campaign の間の FTP 通信用の資格情報を提供するデータ・ソースの名前を示します。この値は、Acoustic Campaign サーバーに接続するユーザー・アカウント (**Platform User with Data Sources for Acoustic Campaign Credentials**) 用に作成された Acoustic Campaign FTP のデータ・ソース名と正確に一致する必要があります。これは、デフォルト値の設定にしておくことがベスト・プラクティスです。

デフォルト値

ENGAGE_FTP_DS

Host Name for File Transfer

構成カテゴリ

Campaign | partitions | partition[n] | Acoustic Campaign

説明

「Host Name for File Transfer」は、Campaign がコンタクト・リストを TSV 形式でアップロードする Acoustic Campaign FTP サーバーのホスト名を示します。このファイルは、コンタクト・リストにアップロードされた後、自動的に削除されます。

デフォルト値

<none>

有効な値

IBM® Marketing Cloud の FTP アドレスのリストに含まれている有効なアドレス。

例:transfer2.silverpop.com

Port Number for File Transfer**構成カテゴリ**

Campaign | partitions | partition[n] | Acoustic Campaign

説明

「Port Number for File Transfer」は、「Host Name for File Transfer」で指定した FTP サーバーのポート番号を示します。

デフォルト値

22

有効な値

有効な FTP ポート番号

Use proxy for ServiceURL**説明**

ServiceURL にプロキシを使用するかどうかを決定します。「はい」を選択すると、接続でプロキシ・サーバーが使用されます。プロキシ・サーバーの詳細は、「Campaign」>「proxy」の下で構成できます。「いいえ」を選択すると、Acoustic Campaign への接続にプロキシ・サーバーは使用されません。

デフォルト値

いいえ

有効な値

はい、いいえ

Use proxy for FTP**説明**

FTP にプロキシを使用するかどうかを決定します。「はい」を選択すると、Acoustic Campaign FTP サーバーへの接続でプロキシ・サーバーが使用されます。プロキシ・サーバーの詳細は、「Campaign」>「proxy」の下で構成できます。「いいえ」を選択すると、Acoustic Campaign FTP サーバーへの接続にプロキシ・サーバーは使用されません。

デフォルト値

いいえ

有効な値

はい、いいえ

allowableFailurePercentage

説明

キャンペーン・コンタクト・リストが Acoustic Campaign で処理されるときに何らかの理由でコンタクトの処理に失敗すると、Campaign にエラーが返されます。allowableFailurePercentage プロパティを使用すると、キャンペーン・プロセスが失敗になるまでにレコード処理の失敗が許容されるパーセンテージを指定できます。失敗したレコードのパーセンテージが、構成した allowableFailurePercentage を超えると、プロセスは失敗します。

失敗したレコードのパーセンテージが、構成した allowableFailurePercentage 以下の場合、プロセスは失敗しません。重複したレコードは、有効なレコードと見なされるため、プロセス・ボックスの allowableFailurePercentage に影響を与えません。有効なレコードはすべて Acoustic Campaign にインポートされます。

失敗したレコードのパーセンテージは、 $(\text{TOTAL_ROWS} - \text{TOTAL_VALID}) / \text{TOTAL_ROWS} * 100$ として計算されます。

プロセスの警告とエラーは、ImportErrors ログ・ファイルに記録されます。このファイルは定期的に削除できます。ImportErrors ログ・ファイルは <Campaign_home>/logs フォルダーにあります。

デフォルト値

0

有効な値

0 から 100 までの整数。

Campaign | partitions | partition[n] | Acoustic Campaign | contactAndResponseHistTracking

これらのプロパティは、UBX からダウンロードされたイベントを Unica Campaign 履歴テーブルに ETL する処理を指定します。

これらのプロパティを使用するには、「設定」 > 「構成」を選択します。Unica Campaign のインストール済み環境に複数のパーティションがある場合は、統合を使用するパーティションごとにこれらのプロパティを設定します。

etlEnabled

説明

イベント・テーブルから Unica Campaign 履歴テーブルへの ETL データ転送を有効にするかどうかを決定します。

デフォルト値

いいえ

有効な値

はい、いいえ

runOnceADay

説明

ETL を 1 日に 1 回実行するかどうかを決定します。sleepIntervallInMinutes プロパティを指定すると、繰り返し実行することができます。runOnceADay を「はい」に設定した場合は、ETL が 1 日に 1 回、指定した時刻に実行されます。

有効な値

はい、いいえ

batchSize

説明

1 回の ETL サイクルで処理されるレコード数。

デフォルト値

100

有効な値

100、200、500、1000、10000、100000

sleepIntervallInMinutes

説明

もう一度 ETL を実行するまで待機する分を指定します。この値は、runOnceADay を「いいえ」に設定した場合に使用します。

デフォルト値

60

有効な値

正整数。

startTime

説明

runOnceADay を「はい」に設定した場合は、このプロパティで ETL の実行開始時刻を指定します。

デフォルト値

12:00:00 AM

有効な値

hh:mm:ss AM/PM という形式の、任意の有効な時刻

notificationScript

説明

ETL の実行が完了した後に実行する任意のスクリプトを入力します。

デフォルト値

デフォルト値が定義されていません。

有効な値

Campaign サーバーが読み取り権限または実行権限でアクセスできる任意の有効なパス。例: D:\myscripts\scriptname.exe

Campaign | partitions | partition[n] | UBX

これらのプロパティは、Unica Campaign、Engage、および UBX が統合されている場合に、それらの製品間の認証とデータ交換を制御します。

これらのプロパティを使用するには、「設定」 > 「構成」を選択します。Unica Campaign のインストール済み環境に複数のパーティションがある場合は、統合を使用するパーティションごとにこれらのプロパティを設定します。

API URL

説明

UBX サーバー API URL を指定します。

UBX エンドポイント許可キーのデータ・ソース (Data Source for UBX Endpoint Authorization key)

説明

Unica Campaign の登録済みエンドポイントの許可キーが含まれているデータ・ソース名を指定します。例えば、UBX_DS。

Platform User with Data Sources for UBX Credentials

説明

構成プロパティ「Data Source for UBX Endpoint Authorization key」で指定した名前のデータ・ソースが含まれている Platform ユーザー名を指定します。

Use proxy for API URL

説明

UBX 接続にプロキシ・サーバーを使用する場合に決めます。「はい」を選択した場合は、プロキシ・サーバーの詳細を「Campaign」 > 「proxy」の下で構成します。

Campaign | partitions | partition[n] | UBX | Event Download Schedule

これらのプロパティは、イベントを UBX から Unica Campaign にダウンロードする時刻を指定します。

これらのプロパティを使用するには、「設定」 > 「構成」を選択します。Unica Campaign のインストール済み環境に複数のパーティションがある場合は、統合を使用するパーティションごとにこれらのプロパティを設定します。

Event Download Enabled

説明

UBX のイベントを Unica Campaign システム・スキーマのイベント・テーブルにダウンロードするかどうかを決定します。

デフォルト値

いいえ

有効な値

はい、いいえ

runOnceADay

説明

ダウンロードを日次で行うかどうかを決定します。sleepIntervallInMinutes プロパティを指定すると、繰り返し実行することができます。

sleepIntervallInMinutes

説明

もう一度ダウンロードを実行するまで待機する分数を指定します。この値は、runOnceADay を「いいえ」に設定した場合に使用します。

startTime

説明

runOnceADay を「はい」に設定した場合は、このプロパティでイベントのダウンロードの開始時刻を指定します。

Campaign | Campaign Rest API フィルター

統合環境では、Campaign からのオファーを Acoustic Campaign で使用するには、Acoustic Campaign Rest API フィルターのすべてのプロパティを無効にする必要があります。

これらのプロパティにアクセスするには、Affinium|suite|security|apiSecurity|campaign|Engage Rest API Filter に移動します。

API アクセスのブロック

デフォルト値

使用可能

有効値

有効、無効

HTTPS を介した API アクセスの保護

デフォルト値

使用可能

有効値

有効、無効

API アクセスには認証が必要

デフォルト値

使用可能

有効値

有効、無効

Campaign | proxy

Unica Campaign、Acoustic Campaign、および UBX の統合は、アウトバウンド・プロキシ接続によってサポートされます。

これらのプロパティを使用するには、「設定」 > 「構成」を選択します。

Proxy host name

説明

プロキシ・サーバーのホスト名または IP アドレスを指定します。

Proxy port number

説明

プロキシ・サーバーのポート番号を指定します。

Proxy type

説明

プロキシ・サーバーのタイプを選択します。

デフォルト値

HTTP

有効値

HTTP、SOCK5

Data source for credentials


説明

プロキシ・サーバーのユーザー名およびパスワードの詳細が含まれているデータ・ソース名を指定します。

Platform user with data source for proxy credentials

説明


「Data source for credentials」プロパティに指定したデータ・ソースを所有する Platform ユーザーの名前を指定します。

 **注:** Campaign を WebLogic サーバーに配置し、HTTP プロキシを構成する場合、変数 `DUseSunHttpHandler=true` in `JAVA_OPTION` を `setDomainEnv.cmd` ファイルに追加する必要があります。

UBX で Unica Campaign エンドポイントをサブスクライバーとして登録する方法

統合環境で UBX からイベントをダウンロードするには、UBX で Campaign エンドポイントをサブスクライバーとして登録する必要があります。

UBX で Acoustic Campaign または IBM Mobile Customer Engagement をパブリッシャーとして追加する必要があります。

 **注:** UBX Toolkit を使用して UBX からイベントをダウンロードしている環境で UBX Toolkit をそのまま使用し続けたいと思っているのであれば、このトピックは当てはまりません。以下の手順をスキップしてください。

Unica Campaign エンドポイントをサブスクライバーとして登録するには、以下の手順を実行します。

1. UBX URL をクリックして UBX にアクセスします。
2. 「エンドポイント」タブで「新しいエンドポイントの登録」をクリックします。
3. 「エンドポイント・タイプ」で「Campaign」を選択し、「次へ」をクリックします。
4. 「次へ」をクリックして、エンドポイント登録要求を実行します。
そのエンドポイントが `Pending` のステータスで「エンドポイント」タブに表示されます。
5. 「エンドポイント」タブで、要求したエンドポイントの詳細情報を開きます。
6. 認証鍵をコピーします。この後の手順でその認証鍵が必要になります。
7. Unica Marketing Platform にログインします。
8. IBM UBX への接続権限のある Unica Marketing Platform のユーザー・アカウントでデータ・ソースを作成します。
9. エンドポイント・ユーザー名として UBX (または空ではない任意のストリング) を指定し、先ほどコピーした認証鍵をそのデータ・ソースのパスワードとして追加します。
10. `Affinium|Campaign|partitions|partition[n]|ubx` にあるエンドポイント・プロパティを指定します。
11. `<CAMPAIGN_HOME>/tools/UBXTools/` にある `setenv` ファイルで、以下の環境変数が構成されていることを確認します。
 - `JAVA_HOME`
 - `CAMPAIGN_HOME`

- JDBC_DRIVER_CLASSPATH
 - UNICA_PLATFORM_HOME
12. エンドポイントを登録するために、<CAMPAIGN_HOME>/tools/UBXTools/に移動して、以下のコマンドを実行します。
- Windows の場合: RegisterEndPoint.bat partition_name
 - UNIX の場合: ./RegisterEndPoint.sh partition_name
13. UBX で「エンドポイント」タブに移動して、「最新表示」をクリックします。エンドポイントがActiveになっていることを確認してください。

統合のための UBX Toolkit のインストールと構成

Acoustic Campaign から Unica Campaign へのレスポンス・トラッキングをサポートするには、UBX Toolkit をインストールして構成する必要があります。Unica Campaign とそのデータベースを UBX API および IBM Commerce エコシステムに安全に接続するため、UBX Toolkit は企業ファイアウォールの背後にインストールします。

- ローカル・サーバー上に UBX Toolkit のファイルをインストールおよび構成するための管理アクセスが必要です。
- ご使用のアカウント用に設定された UBX API の URL を知っておく必要があります。UBX Toolkit の config.properties ファイルの `ubx.api.service.url` でこの値を入力する必要があります。多くの場合、IBM Provisioning では、この URL をプロビジョニング・プロセスの一部として提供します。この URL がわからない場合は、[Unica Campaign、Acoustic Campaign、および UBX のための Provisioning の要件\(9 ページ\)](#)を参照してください。

Unica Campaign バージョン 10.0.0.1 から、UBX Toolkit でイベントをダウンロードする必要がなくなりました。Unica Campaign の組み込み機能を使用して、UBX ユーザー・インターフェースで Unica Campaign エンドポイントを登録してイベントをダウンロードしてください。オーディエンスをシンジケートする場合は、オーディエンス・パブリッシャーとオーディエンス・サブスクリプションで UBX Toolkit が引き続き必要になります。

UBX Toolkit は、ローカル・ネットワーク環境にインストールされる各種プロパティ・ファイルおよびスクリプトで構成され、これらは実際の業務の要件を満たすように修正されます。

この統合のコンテキストにおいて、Unica Campaign はイベント宛先 (イベント・コンシューマー・エンドポイント) です。UBX Toolkit ドキュメンテーションを使用して以下のステップを実行する場合、イベント・コンシューマーに関する指示のみ適用されます。オーディエンス・エンドポイントに関する指示は適用されません。

UBX Toolkit ドキュメンテーションのうち、この統合に関連するのは、以下の部分のみです。

- Chapter 1. Overview of the UBX Toolkit
- Chapter 2. UBX Toolkit installation and configuration
- Chapter 3. Event destination endpoints

1. IBM UBX Toolkit の資料を参照します。
2. 手順に従います。

Unica Campaign はイベント・コンシューマーであることに注意してください。したがって、実行することが必要なのはイベント・コンシューマーに関する指示だけです。

オーディエンス・プロデューサーおよびエンドポイントに関する指示は適用されません。例えば、この統合において UBX アカウント・レベルの認証鍵は関係がありません。関係するのは、エンドポイント・レベルの認証鍵のみです。

3. UBX Toolkit ドキュメンテーションの第 3 章『Event destination endpoints』の指示に従って、Unica Campaign をイベント宛先エンドポイントとして登録します。

まだ実行していない場合は、UBX および UBX Toolkit を介して Acoustic Campaign から Unica Campaign にダウンロードされるイベント・データを保持するためのレスポンス・トラッキング・テーブルを作成します。[統合のためのレスポンス・トラッキング・テーブルの作成\(27 ページ\)](#)を参照してください。

統合のためのレスポンス・トラッキング・テーブルの作成

レスポンス・テーブルの作成は、統合構成の一部として実行される一回限りのタスクです。ただし、Unica Campaign バージョン 10.0.0.1 以降を使用している場合、この手順は当てはまりません。Unica Campaign バージョン 10.0.0.1 以降は、Unica Campaign を使用してイベントをダウンロードすると、レスポンス・トラッキング・テーブルが自動的に作成されるようになっています。

- UBX Toolkit がインストールされていて、構成されている必要があります。
- テーブルを作成するデータベース・サーバー上にファイルをインストールおよび構成するための管理アクセスが必要です。

レスポンス・トラッキング・テーブルは、顧客レスポンスについてのイベント・データを格納するために必要です。イベントには、開く、クリックする、バウンスする、などの顧客アクションについての情報が含まれます。作成するテーブルのデータは、ユーザーが UBX Toolkit スクリプトを実行して、データをダウンロードし、次いでインポートする際に設定されます。その後、データを設定したテーブルに、フローチャート内のデータ・ソースとして Unica Campaign からアクセスすることができます。

1. UBX Toolkit には、SQL、DB2、および Oracle の DDL サンプル・スクリプトが含まれています。該当するスクリプトを使用して、希望する形式でデータベース・テーブルを作成してください。

i ヒント: テキスト・エディターでスクリプト・ファイルを確認することにより、作成されるフィールドとデータ型を表示することが可能で、容易に 1 次キーを識別することができます。

2. UBX Toolkit に付属のデータベース・テーブル・マッピング・ファイル (EventToDBTableMapping.xml) を使用して、イベント・データをデータベース・テーブルのフィールド名に一致させます。これにより、データをテーブルに挿入する方法が決定されます。
3. トラッキング・テーブルの使用と管理の方法については、[統合のレスポンス・トラッキング・テーブル\(68 ページ\)](#)を参照してください。
4. レスポンス・トラッキング・テーブルにどのようなイベントを格納できるかについては、[Eメール: レスポンス・トラッキング\(43 ページ\)](#)を参照してください。

次のステップは、UBX の構成です。[統合用の UBX の構成\(28 ページ\)](#)を参照してください。

統合用の UBX の構成

このタスクには、UBX を使用することにより、イベント・プロデューサー・エンドポイントを構成し、イベントに対して Campaign をサブスクライブする作業が関係します。このタスクは、Acoustic Campaign から Unica Campaign へのレスポンス・トラッキングをサポートするために必要です。

始める前に:


- 必要なプロビジョニング・タスクが IBM Provisioning によりすべて完了している必要があります。
- IBM UBX Toolkit がインストールされていて、構成されている必要があります。
- Acoustic Campaign 組織のリフレッシュ・トークンとポッド名を知っておく必要があります。分からない場合は、Acoustic Campaign 組織管理者にお問い合わせください。

エンドポイントの主なタイプとして 2 種類あります。1 つはプロデューサー (イベントを生成するアプリケーション)、もう 1 つは宛先 (それらのイベントを消費するアプリケーション) です。Acoustic Campaign は、イベント・プロデューサーです。Unica Campaign はイベント・コンシューマー、つまりサブスクライバーです。このタスクを完了することにより、UBX が、クリックやバウンスなどのカスタマー・レスポンス・イベントを処理して、Unica Campaign に返ってくる通信を UBX Toolkit を介して処理することができます。

レスポンス・イベント・データは、レスポンス・トラッキング・テーブルに保管されます。レスポンス・トラッキング・テーブルを作成する作業は、別の構成ステップです。

1. E メールまたは SMS テキスト・メッセージングを使用する場合は、UBX を使用することにより、Acoustic Campaign をイベント・プロデューサー・エンドポイントとして登録します。
 - a. UBX の「エンドポイント」タブで、「**新しいエンドポイントの登録**」をクリックします。
 - b. 「**Acoustic Campaign**」をイベント・プロデューサー・エンドポイントとして選択し、「**次へ**」をクリックします。
 - c. 画面上の指示に従い、登録を完了します。
2. モバイル・アプリ・メッセージ (プッシュ) を使用する場合は、UBX を使用することにより、IBM Mobile Customer Engagement (Xtify) をイベント・プロデューサー・エンドポイントとして登録します。
 - a. UBX の「エンドポイント」タブで、「**新しいエンドポイントの登録**」をクリックします。
 - b. 「**IBM Mobile Customer Engagement**」をイベント・プロデューサー・エンドポイントとして選択し、「**次へ**」をクリックします。
 - c. 画面上の指示に従い、登録を完了します。
3. E メール、プッシュ、SMS のレスポンスを収集する場合は、UBX を使用して、E メール、プッシュ、SMS のイベントを受け取れるように Unica Campaign を登録します。
 - a. UBX の「イベント」タブで、「**イベントをサブスクライブ**」をクリックします。
 - b. 「イベントの選択」列で「**Acoustic Campaign**」を選択し、E メール、プッシュ、SMS の使用可能なイベントをすべて選択します。
 - c. 「宛先の選択」列で「**Campaign**」をイベントの宛先として選択します。
 - d. 「**サブスクライブ**」をクリックします。
4. Acoustic Campaign バージョン 16.4 以降の場合は、モバイル・プッシュ・イベントがエンドポイントでパブリッシュされます。Unica Campaign と Acoustic Campaign の統合を既に構成している場合は、UBX の「イベント」タブで以下の手順を実行する必要があります。

- a. エンドポイントで Acoustic Campaign によってパブリッシュされるすべてのモバイル・プッシュ・イベントをサブスクライブします。
- b. エンドポイントで IBM Mobile Customer Engagement によってパブリッシュされるすべてのモバイル・プッシュ・イベントをアンサブスクライブします。

 **注:** そのイベントをアンサブスクライブしないと、IBM Mobile Customer Engagement で生成されるすべてのイベントが Unica Campaign の UA_Gen_Event_Record テーブルに取り込まれます。

[Unica Campaign と Acoustic Campaign の統合の構成\(7 ページ\)](#) に示されている構成ステップのすべてが完了していることを確認してください。

オーディエンス情報の同期フィールドの設定

テスト実行または実稼働実行を行うと、オーディエンス情報が Unica Campaign から Acoustic Campaign にエクスポートされます。E メール・プロセスおよびプッシュ・プロセスの場合は、オーディエンス情報の同期フィールドとして使用する必要があるフィールドを指定できます。

オーディエンス情報の同期フィールドの設定

E メール・プロセスおよびプッシュ・プロセスの場合、デフォルトでは Unica Campaign の `campaignaudienceld` が同期フィールドとして使用されます。SMS プロセスの場合は、電話番号が同期フィールドとして使用されます。

同期フィールドを設定するには、E メール・プロセスまたはプッシュ・プロセスの「**フィールド・マッピング**」タブに移動します。「**Acoustic Campaign にエクスポートするフィールド**」を選択し、マッピングを実行します。同期フィールドとして使用する 1 つまたは複数のフィールドの「**同期**」列にあるチェック・マーク チェック・マークをクリックします。

同期フィールドおよび Acoustic Campaign へのデータのアップロードに関する以下の点に注意してください。

- 同期フィールドの組み合わせが固有のレコードになる場合、オーディエンス・データは新しいオーディエンス・データとして Acoustic Campaign にアップロードされます。
- 同期フィールドの組み合わせが固有のレコードにならない場合、Acoustic Campaign の既存のオーディエンス・データが更新されます。
- E メールおよび MobileUserID には大/小文字の区別がありません。
- `campaignaudienceld` は、他のフィールドを同期フィールドとして選択した場合でも、Acoustic Campaign にアップロードされます。
- `campaignaudienceld` は、Acoustic Campaign からのレスポンスにも含まれます。同期フィールドを変更しても、E メール・プロセスのレスポンス・トラッキング・メカニズムは変更されません。
- 重複したレコードは、有効なレコードと見なされるため、プロセス・ボックスの **allowableFailurePercentage** に影響を与えません。

注: キー型の (制限された) データベースを使用している場合、指定した同期フィールドは無視されて、キー・フィールドのみが Acoustic Campaign へのデータのアップロードに使用されます。

注: Campaign テーブルがテキスト・タイプのオーディエンス・レベルでマップされている場合は、**EnableSelectOrderBy** プロパティを `False` に設定する必要があります。詳しくは、「Unica Campaign 管理者ガイド」の『構成プロパティ』を参照してください。

campaignaudienceld フィールド

テスト実行や実稼働実行が完了すると、Unica Campaign によってオーディエンス情報が `campaignaudienceld` という特殊なフィールドにエクスポートされます。campaignaudienceld フィールドに関する注意点を以下にまとめます。

- コンタクト・データが Acoustic Campaign データベースに初めてアップロードされると、データベースに `campaignaudienceld` 列が追加されます。デフォルトでは、この `campaignaudienceld` フィールドがルックアップ・キーになります。
- Acoustic Campaign データベースに `campaignaudienceld` のデータが取り込まれるのは、コンタクト・データのアップロードが Campaign から開始された場合のみです。
- `campaignaudienceld` 列が追加された後は、コンタクト・データがアップロードされた時に、オーディエンス情報がその列にアップロードされます。
- コンタクトのために Acoustic Campaign から UBX に送信される各イベントに `campaignaudienceld` が組み込まれます。例えば、**emailSend**、**emailOpen**、**emailBouce**、**emailClick** などです。
- E メール・プロセスの「フィールド・マッピング」タブで `campaignaudienceld` データベース列をマップすることはできません。`campaignaudienceld` データベース列は内部で更新されます。
- SMS プロセスを実行すると、イベント・ダウンロード・スケジュールの `sleepIntervallnMinutes` プロパティで指定した時間が経過した後に、`UA_SENTSMS` および `UA_INTERACTEDSMS` システム・テーブルの `campaignaudienceld` にデータが取り込まれます。SMS プロセスに示されているように、Acoustic Campaign データベース内の各コンタクト・リストの `campaignaudienceld` にもデータが取り込まれます。
- プッシュ・プロセスを実行すると、イベント・ダウンロード・スケジュールの `sleepIntervallnMinutes` プロパティで指定した時間が経過した後に、`UA_SIMPNOT_APPOPENED`、`UA_SIMPNOT_URLCLICKED`、および `UA_MOB_PUSH_SEND` システム・テーブルの `campaignaudienceld` にデータが取り込まれます。プッシュ・プロセスに示されているように、Acoustic Campaign データベース内の各コンタクト・リストの `campaignaudienceld` にもデータが取り込まれます。
- `campaignaudienceld` は `AudienceName~#field1Name~#fieldValue~#field2Name~#fieldvalue~#fieldnName~#fieldvalue` という形式です。
例えば、`Customer~#CustomerID~#20` です。

Unica Campaign と Acoustic Campaign の統合ログ

Unica Campaign と Acoustic Campaign を統合した場合は、`<Campaign_home>/conf/` フォルダの `campaign_log4j.properties` ファイルで、Unica Campaign Acoustic Campaign インポート・サービス実行ログを有効化できます。

クラスの名前は `log4j.logger.com.unica.webservices.campaign.rest.EngageImportService` です。

ログは `INFO`、`WARN`、および `DEBUG` モードで収集されます。

デフォルトでは、ログ・ファイルは <Campaign_home>/logs フォルダの campaignweb.log にあります。

Acoustic Campaign ETL のログ

Acoustic Campaign ETL のログには、以下のパラメーターを使用できます。

```
log4j.logger.ENGAGE_ETL=DEBUG, ENGAGE_ETL
# Specifying this log is only for ETL and do not append to Unica Campaign web log
log4j.additivity.ENGAGE_ETL=false

log4j.appender.ENGAGE_ETL=org.apache.log4j.RollingFileAppender
log4j.appender.ENGAGE_ETL.layout=org.apache.log4j.PatternLayout
log4j.appender.ENGAGE_ETL.Encoding=UTF-8
log4j.appender.ENGAGE_ETL.MaxBackupIndex=50
log4j.appender.ENGAGE_ETL.File=/opt/IBM/xEMM/Campaign/logs/EngageETL.log
log4j.appender.ENGAGE_ETL.MaxFileSize=10000KB
log4j.appender.ENGAGE_ETL.layout.ConversionPattern=%d{MM/dd/yyyy HH:mm:ss} %-5p %c{2} [%L] - %m%n
```

UBX のログ

UBX のログには、以下のパラメーターを使用できます。

```
log4j.logger.UBX=DEBUG, UBX
# Specifying this log is only for ETL and do not append to Unica Campaign web log
log4j.additivity.UBX=false

log4j.appender.UBX=org.apache.log4j.RollingFileAppender
log4j.appender.UBX.layout=org.apache.log4j.PatternLayout
log4j.appender.UBX.Encoding=UTF-8
log4j.appender.UBX.MaxBackupIndex=50
log4j.appender.UBX.File=/opt/IBM/xEMM/Campaign/logs/UBX.log
log4j.appender.UBX.MaxFileSize=10000KB
log4j.appender.UBX.layout.ConversionPattern=%d{MM/dd/yyyy HH:mm:ss} %-5p %c{2} [%L] - %m%n
```


E メール: Unica Campaign と Acoustic Campaign の使用


Unica Campaign と Acoustic Campaign が統合されている場合、Unica Campaign を使用することによって、パーソナライズされた E メール通信を Acoustic Campaign から送信することができます。

E メール・プロセスの使用に関する注意点を以下にまとめます。

- E メールを送信するには、Unica Campaign ユーザーと Acoustic Campaign ユーザーの間で作業の調整が必要になります。テンプレートをセットアップし、テスト実行を実施し、最終的な実稼働実行を調整する必要があります。
- メール配信の送信後、Acoustic Campaign でレスポンスがトラッキングされ、UBX および UBX Toolkit を介して Unica Campaign に返されます。
- レスポンス・データを Acoustic Campaign から Unica Campaign に戻すためには、UBX Toolkit ユーザー (通常は Unica Campaign ユーザー) がスクリプトを実行します。組織によっては、スクリプトを自動化して、データ経路指定が自動的に行われるようにしています。

- その上で Unica Campaign を使用することにより、レスポnderと非レスポnderのターゲット設定を再度行うことができます。
- コンタクトの E メール・アドレスが NULL または BAD である場合、E メール・プロセスのコンタクトは失敗します。

 **注:** E メール・メッセージを送信するには、E メール・プロセス・ボックスでメッセージの配信を構成するか、または IBM Marketing Cloud の送信エクスペリエンスを使用する必要があります。IBM Marketing Cloud プログラムによる E メール・メッセージのトリガーは、Unica Campaign 統合ではサポートされていません。

 **注:** 統合環境で E メール・チャンネル、SMS チャンネル、およびプッシュ・チャンネルを使用する場合は、チャンネルごとに別のデータベースを使用してください。

違反を防止するためのデータのフィルター処理

E メール・アドレスが特定の文字を含む場合や特定のドメインからのものである場合は、それらのアドレスに Acoustic Campaign から E メールが送信されない可能性があります。

一部のプレフィックスやドメインは、インポートおよび送信からデフォルトでブロックされます。組織管理者であるユーザーは、Acoustic Campaign の「設定」>「Eメールのブロック」から、特定の組織に適用可能なブロックするプレフィックスおよびドメインのリストを変更できます。

Eメールの作成と送信

Unica Campaign を使用して、パーソナライズされた E メール通信を Acoustic Campaign から送信するには、次の手順を実行します。

Eメールを送信することには、Unica Campaign と Acoustic Campaign for Marketing Cloud の両方を使用することが関係します。

1. Acoustic Campaign を使用することにより、Eメール・テンプレートを準備します。

以下のガイドラインに従ってください。

- テンプレートに、それが属する Unica Campaign にとって意味がある名前を付けます。これにより、両方のアプリケーションでテンプレートを識別しやすくなります。
 - テンプレートの場合、「**連絡先のソース**」を選択し、「データベース」、「連絡先リスト」、または「照会」を選択します。「**連絡先のソース**」は、「共有」セクションになければなりません。
 - 「**テンプレートのロケーション**」では、「共有」を選択します。**Unica Campaign では、共有テンプレートのみ使用可能です。**
 - テンプレートを保存し、テストのためそれをプレビューします。
 - Eメール本文について、必要ならパーソナライズ変数を含めて、コンテンツを作成します。
2. Unica Campaign を使用して、Unica Campaign を作成し、フローチャートを追加します。
 3. Unica Campaign フローチャートで Eメール・プロセスを構成します。

詳しくは、[Eメール: Unica Campaign フローチャートでの Eメール・プロセスの構成\(33 ページ\)](#) を参照してください。
 4. Unica Campaign でテスト実行を実施します。

詳しくは、[Eメール: テスト実行\(41 ページ\)](#) を参照してください。

- Unica Campaign で実稼働実行を実施します。

詳しくは、[Eメール: 実稼働実行\(42 ページ\)](#) を参照してください。

- レスポンス・トラッキングを実行します。

[Eメール: レスポンス・トラッキング\(43 ページ\)](#) を参照してください。


Eメール: Unica Campaign フローチャートでの Eメール・プロセスの構成

Unica Campaign を Acoustic Campaign に統合した場合は、Unica Campaign の Eメール・プロセスを使用して、パーソナライズした Eメール通信を送信できます。

このタスクを実行する前に、以下の操作を実行する必要があります。

- Unica Campaign 内: マーケティング・キャンペーンを作成し、フローチャートを追加します。
- Acoustic Campaign 内: Acoustic Campaign の Eメールのテンプレートおよび本文を作成します。
- Acoustic Campaign ユーザーは Unica Campaign ユーザーに以下の情報を提供する必要があります。
 - Unica Campaign で生成されるコンタクト・リストのために使用する Acoustic Campaign データベースの名前。これは、メッセージの送信に使用する特定の Eメール・チャンネル用のデータベースです。
 - Acoustic Campaign データベース表のフィールドのリスト。各フィールドのデータ・タイプ (テキスト、日付、時刻など) とデータ形式の例を含むもの。
 - Acoustic Campaign Eメール・テンプレートの名前。
 - (フローチャートの実行時に) Acoustic Campaign コンタクト・リストを新規作成するか、それとも既存のものを更新するか。
 - Inbox Monitoring を使用するかどうか。
 - Unica Campaign でパーソナライズを適用するかどうか (例えば、Acoustic Campaign の Eメール・テンプレートに指定されている件名と異なる件名を使用するなど)。
 - Unica Campaign フローチャートを実行した場合にただちにすべての Eメールを送信するかどうか。そうする場合、どの「送信済み」フォルダーを使用するか。

フローチャートには複数のチャンネル (Eメール、SMS、プッシュ) を含めることができますが、チャンネルごとに別のプロセスとして構成する必要があります。このトピックでは、Unica Campaign フローチャートで Eメール・プロセス・ボックスを使用する方法について説明します。

 **注:** Eメール・メッセージを送信するには、Eメール・プロセス・ボックスでメッセージの配信を構成するか、または IBM Marketing Cloud の送信エクスペリエンスを使用する必要があります。IBM Marketing Cloud プログラムによる Eメール・メッセージのトリガーは、Unica Campaign 統合ではサポートされていません。


1. Eメール・キャンペーンで使用するセグメントを選択するためのプロセスをフローチャートに構成します。例えば、25 歳から 31 歳までのすべての男性を選択したりします。他のフローチャートと同様に、「選択」、「セグメント」、「マージ」などの複数のプロセスを使用できます。
2. Eメール・プロセスをフローチャートに追加します。Eメール・プロセスは、フローチャート内の最後のプロセスでなければなりません。
3. ステップ 1 で作成した少なくとも 1 つのプロセスを、入力として Eメール・プロセスに接続します。例:



- 単一の選択プロセス (25 歳から 31 歳までのすべての男性など) を E メール・プロセスに接続します。
 - 複数の選択プロセス (高価値、中価値、および低価値のコンタクト) を E メール・プロセスに接続します。
 - 顧客を国別のセグメントに分け、セグメントごとに別の E メール・プロセスに接続します (国別にメールを配信するために複数の固有の E メール・リストが生成されます)。
4. E メール・プロセスをダブルクリックして、「E メール・プロセス構成」ダイアログを開きます。
5. E メール・プロセスの「Acoustic Campaign プロパティ」タブを構成します。


「Engage プロパティ」タブ (E メール・プロセス)	
Engage データベース	必須。コンタクト・リストに関連付けられた、柔軟な Engage データベースを選択します。すべての共有 Engage データベースがリストされます。チャンネル (E メール、SMS、およびプッシュ) ごとに 1 つの柔軟なデータベースを使用します。
選択された入力セル	必須。このメール配信を受信するセグメントを選択します。表示される入力セルは、E メール・プロセスに接続したプロセス・ボックス (「選択」、「セグメント」など) によって異なります。例えば、2 つの選択プロセスから E メール・プロセスに入力を提供する場合は、2 つの入力セルがリストされます。通常は、すべての入力セルを選択します。選択したセルのすべての ID が、コンタクト・リストの作成やカスタマイズ (パーソナライズ) で使用できるようになります。
すべて選択	リストされている入力セル (E メール・リスト・プロセスへの入力として接続されているセグメント) をすべて一括で選択します。
すべてクリア	選択のリストを素早くクリアします。
単一のコンタクト・リストを使用	<p>プロセスを実行するときに同じ Engage コンタクト・リストを使用する場合は「単一のコンタクト・リストを使用」を選択します。その後、Engage コンタクト・リストを選択します。リスト内のすべてのコンタクトがメール配信の対象になります。</p> <p>新規の実行でリストを再利用する前にリストからすべてのコンタクトを削除する場合は、「コンタクト・リストを消去してから更新」にチェック・マークを付けます。</p> <p>以下のコントロールを使用して、後続の各実行でコンタクト・リストを更新する方法を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 常に新しいコンタクトを追加: 一致するコンタクトを更新しません。リストにないコンタクトが Unica Campaign データに含まれている場合は、それらをリストに追加します。 • 一致するコンタクトを更新します。見つからないコンタクトはスキップします: 既存のコンタクトを Unica Campaign のデータで更新します。新しいコンタクトはリストに追加されません。 • 一致するコンタクトを更新します。見つからないコンタクトを追加します: 既存のコンタクトを Unica Campaign のデータで更新します。リストにないコンタクトは追加されます。


「Engage プロパティ」タブ (E メール・プロセス)	
	プロセス・ボックスのテスト実行や実稼働実行を行うと、コンタクト・リストが作成または更新されます。リスト内のすべてのコンタクトがメール配信の対象になります。
実行するたびに新しいコンタクト・リストを作成	<p>プロセスを実行するたびに新しい Engage コンタクト・リストを作成する場合は、「実行するたびに新しいコンタクト・リストを作成」を選択します。リスト内のすべてのコンタクトがメール配信の対象になります。</p> <p>コンタクト・リストの「名前」を指定します。</p> <p>「サフィックスの追加」または「プレフィックスの追加」を選択して、タイム・スタンプをファイル名の先頭または末尾のどちらに含めるかを指定します。リスト名を固有にするために、必ず、プロセス実行のタイム・スタンプが追加されます。</p> <p>オプションで、ファイル名の一部として、Unica Campaign ID または Eメールのセル名、またはその両方を含めます。</p>

6. Eメール・プロセスの「**コンテンツのカスタマイズ**」タブを構成します。




「コンテンツのカスタマイズ」タブ (E メール・プロセス)	
Eメール・テンプレート	<p>オプション。Engage の Eメール・テンプレートを選択します。すべての共有テンプレートがリストされます。テンプレートによって、Eメールの内容が決まります。このダイアログ・ボックスで変更を行わない場合、すべての内容がテンプレートからそのまま取り込まれます。このダイアログで加えた変更は、テンプレートの内容をオーバーライドします。テンプレートには変更は保存されませんが、このプロセス・ボックスの現在の実行では、変更した内容がメール配信に使用されます。</p> <p>Eメール・プロセス・ボックスの実行によって、「コンテンツのカスタマイズ」タブで Eメール・テンプレートなどを選択せずに、Engage データベースでコンタクト・リストのみを更新できます。Eメール・プロセス・ボックスにより、Engage データベースへのデータのアップロードのみが行われます。Unica Campaign から Eメール・テンプレートやカスタマイズ情報は渡されないため、Eメールは送信されません。Eメール・プロセス・ボックスで Eメール・テンプレートが選択されていない場合、Eメール送信に関連するすべてのフィールドが無効化されます。「コンテンツのカスタマイズ」タブで何も指定または選択されていなくても、Eメール・プロセス・ボックスは構成済みとして表示されます。</p> <p>この機能は Eメール・プロセス・ボックスにのみ適用され、プッシュ・プロセス・ボックスや SMS プロセス・ボックスには適用されません。</p>
受信箱のモニターを有効にする	<p> 重要: この機能を使用するかどうかにかかわらず、コストとレポート作成に関する懸念事項があります。詳しくは、Engage 製品資料を参照してください。</p> <p>受信箱のモニターは、Engage のオプションの機能です。</p>

「コンテンツのカスタマイズ」タブ (Eメール・プロセス)	
	<p>Engage のこの機能を購入して有効にした場合は、このオプションの選択/選択解除によって、機能を使用するかどうかを選択できます。この機能を使用すると、コストが増加する可能性があります。</p> <p>Engage のこの機能を購入して有効にしなかった場合、このオプションは、統合環境の Eメール送信で無視されます(ボックスの選択/選択解除は可能ですが、意味がありません)。</p>
Eメールをただちにすべての連絡先に送信する	<p> 重要: このオプションを使用すると、Unica Campaign で実稼働実行を行ったときにただちに Eメールがすべての受信者に送信されます。先にテスト実行を行うことをお勧めします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「Eメールをただちにすべての連絡先に送信する」オプションは、「Eメール・テンプレート」を選択した場合にのみ使用可能です。 • 「Eメールをただちにすべての連絡先に送信する」にチェック・マークを付けると、Unica Campaign で実稼働実行を行ったときに Eメールがすべての受信者に送信されます。(Unica Campaign のテスト実行では、このオプションを選択するかどうかにかかわらず、Eメールは送信されません)。 • Eメールの送信に Engage を使用したい場合は、このオプションのチェック・マークを外したままにします。このオプションにチェック・マークを付けない場合、Unica Campaign で実稼働実行を行うと、コンタクト・リストが Engage にアップロードされますが、Eメールは送信されません。その後、Engage からの送信を開始/スケジュールできます。
件名	<p>オプション。このフィールドを空のままにした場合は、Engage テンプレートの件名が使用されます。このフィールドに内容を入力した場合は、入力内容が件名としてメール配信で使用されます。</p> <p>変数を指定するには、変数を %% で囲みます。例えば、FirstName フィールドの値を使用するには Hello %%FirstName%%! を指定します。そのフィールドの値が "John" であれば、Eメールの件名は Hello John! に解決されます。</p> <p> 注: 「Eメール」ダイアログ・ボックスの「フィールド・マッピング」タブで指定するマッピングによって、パーソナライズに使用される Unica Campaign フィールドが決まります。例えば、Unica Campaign のフィールド FirstName を Engage のフィールド CustomerFirstName にマップすると、Unica Campaign の FirstName フィールドの値が取得されます。コンタクト・リストが Engage にアップロードされる時、Unica Campaign の FirstName フィールドの値が Engage データベースの CustomerFirstName フィールドを更新するために使用されます。Engage は、新たに更新された CustomerFirstName フィールドを使用して、Eメール・テンプレートにデータを設定します。</p>
Eメール名	<p>必須。Eメール名によって、Engage と Unica Campaign でこのメール配信を識別します。指定した名前が、Engage テンプレートに指定されている「メール配信名」の代わ</p>

「コンテンツのカスタマイズ」タブ (Eメール・プロセス)	
	<p>りに使用されます。メール配信とフローチャートの目的を示す名前にすると、後でわかりやすくなります。静的テキストのみを使用してください (変数は使用しないでください)。この名前は受信者には表示されません。</p> <p>レスポンス・トラッキングをサポートするために、プロセス実行時にプロセス実行のタイム・スタンプが名前に追加されます。これにより、すべてのプロセス実行のメール配信名が固有になります。また、レスポンスをトラッキングするために Unica Campaign コードも含まれます。Engage によって生成されるすべてのイベントは、この固有のメール配信名を含んでいるため、これを使用して、レスポンスを相関付けることができます。</p> <p> 注: 「Eメール名」 に使用できる最大文字数は 256 です。これには、付加されるタイム・スタンプ、および接頭部として追加される Unica Campaign コードが含まれます。「Eメール名」の文字数が 256 を超える場合は、ユーザーが入力した名前が切り捨てられます。</p>
差出人の名前	<p>オプション。Eメール・テンプレートに指定されている「差出人の名前」をオーバーライドします。テンプレート自体は変更されません。受信者にはこの名前がメール配信の「差出人」の名前として表示されます。静的テキストのみを使用してください (変数は使用しないでください)。このフィールドを空のままにすると、Eメール・テンプレートに指定されている「差出人の名前」がメール配信に使用されます。Eメール・テンプレートで何が使用されているかは、Engage のテンプレートを参照できる Engage のマーケティング専門家に確認してください。「差出人の名前」の例: Jane Smith</p>
返信先アドレス	<p>オプション。Eメール・テンプレートに指定されている「返信先アドレス」をオーバーライドします。テンプレート自体は変更されません。静的テキストのみを使用してください (変数は使用しないでください)。このフィールドを空のままにすると、テンプレートに指定されている「返信先アドレス」がメール配信に使用されます。Eメール・テンプレートで何が使用されているかは、Engage のテンプレートを参照できる Engage のマーケティング専門家に確認してください。「返信先アドレス」の例: jsmith@example.com</p>
差出人アドレス	<p>オプション。Eメール・テンプレートで指定される「差出人アドレス」をオーバーライドします。テンプレート自体は変更されません。静的テキストのみを使用してください (変数は使用しないでください)。このフィールドを空のままにすると、テンプレートに指定されている「差出人アドレス」がメール配信に使用されます。Eメール・テンプレートで何が使用されているかは、Engage のテンプレートを参照できる Engage のマーケティング専門家に確認してください。「差出人アドレス」の例: jsmith@example.com</p>

「コンテンツのカスタマイズ」タブ (Eメール・プロセス)	
	<p> 注: ISPによってブロックされないように、「差出人アドレス」と「返信先アドレス」には同じドメインを使用します。Eメールの送信について詳しくは、IBM Marketing Cloud の資料を参照してください。</p>
テンプレートの静的値	<p>オプション。「テンプレートの静的値」フィールドは、Eメール本文の変数を静的テキストでオーバーライドするために使用します。入力したテキストが、送信時のEメールの本文に表示されます。</p> <p>構文: 名前:値のペアを指定します。複数のペアを区切るには、セミコロン (;) を使用します。 Field1:StaticText;Field2:StaticText</p> <p>例: Eメールの本文に、変数 %%Country%% が含まれています。「テンプレートの静的値」フィールドに Country:Canada と指定します。最終的なEメールでは、%%Country%% ではなく "Canada" が使用されます。</p> <p>ユースケース: 国別 (カナダ、米国、メキシコ) にデータをセグメント化するようにフローチャートを構成します。フローチャートに3つのEメール・プロセス・ボックスを追加し、それぞれに別の静的値を構成します。例: Country:Canada、Country:USA、および Country:Mexico。フローチャートを実行すると、Eメールに定義されている変数 (%%Country%%) が静的テキスト (国名) に置き換えられます。結果として、特定の国用にカスタマイズされたコンタクト・リストが3つ生成されます。</p>
フォルダー内に保管	<p>オプション。このオプションは、「Eメールをただちにすべての連絡先に送信する」が選択されている場合にのみ適用されます。</p> <p>メール配信を保管する Engage 内の場所を指定します (「コンテンツ」 > 「メールの表示」 > 「送信済み」)。フォルダーを指定しない場合、メール配信は「送信済み」タブのルートに表示されます。Engage に存在しないフォルダーを指定する場合は、そのフォルダーを (「送信済み」下の) サブフォルダーとして作成することもできます。</p> <p>パス指定についてのガイドライン: スラッシュのみを使用してください。ピリオドは使用しないでください。先頭または末尾にはスラッシュを指定しないでください。C:\Folder などの静的パスは指定しないでください。無効なパスを指定した場合は、「フォルダーが見つかりません」というランタイム・エラーを受け取ります。以下の文字のみサポートされています: #_ - () A-Z a-z 0-9/</p> <p>例: Sent/Campaign/Test にメールを保存するには Campaign/Test と指定します。</p>

7. Eメール・プロセスの「**フィールド・マッピング**」タブを構成します。

「フィールド・マッピング」タブ (Eメール・プロセス)	
最新表示 	<p>選択した「Engage データベース」のテーブル・フィールド情報をリフレッシュします。新しいフィールドを Engage データベースに追加したり、既存のフィールドを変更したりした場合に、このオプションを使用してください。</p> <p> 重要: フィールド情報が変更された場合は、すべてのテーブル列マッピング情報が削除されます。最新表示が完了した後にすべてのフィールド・マッピングを確認する必要があります。</p>
候補フィールド	<p>このリストには、Eメール・プロセス・ボックスに入力を提供するプロセスのフィールドがすべて表示されます。これらは、Campaign のデータベースまたはフラット・ファイルに格納されている、コンタクト名、住所、人口統計、購入履歴などの情報のデータを含む Campaign のフィールドです。</p>
Engage にエクスポートするフィールド	<p>このリスト内のフィールドは、Engage コンタクト・リストを作成または更新するためのデータを提供します。Campaign のデータベースまたはフラット・ファイルから、マップされたフィールドの値が取得されます。</p> <p>例えば、Campaign のフィールド <code>FirstName</code> を Engage のフィールド <code>CustomerFirstName</code> にマップすると、Campaign の <code>FirstName</code> フィールドの値が取得されます。コンタクト・リストが Engage にアップロードされる時、Campaign の <code>FirstName</code> フィールドの値が Engage データベースの <code>CustomerFirstName</code> フィールドを更新するために使用されます。Engage は、新たに更新された <code>CustomerFirstName</code> フィールドを使用して、Eメール・テンプレートにデータを設定します。</p> <p>(Campaign の) 候補フィールドを (Engage の) Engage にエクスポートするフィールドにマップする場合、マップ対象のフィールドで、テキスト、日付、時刻など、同じフィールド・タイプ(データ・タイプ)が使用されていることを確認します。データ・タイプが一致しない場合、システムが候補フィールドの値をマップ対象の Engage データベース・フィールドにインポートしようとしたときにエラーが発生します。</p> <p>「Eメール」(テキスト・データ・タイプ)は必須フィールドであるため、「>>」をクリックして Campaign の対応する「選択フィールド」(テキスト・データ・タイプを使用するもの)と突き合わせてください。</p> <p> 注: Engage には SMS Phone Number という、Campaign にはないデータ型があります。Engage の SMS Phone Number は、Engage で定義されている指定の SMS 番号の形式に列のデータが一致する限り、Campaign の任意のデータ型とマップすることができます。有効な SMS Phone Number 形式は、国別コード + 電話番号です。例えば、アメリカ合衆国では 16786775565、英国では 445554647635 のようになります。</p> <p>また、このリストのフィールドの順序は、Engage のコンタクト・リストのフィールドの順序と一致させてください。矢印アイコンを使用して、選択したフィールドをリスト内で上下に移動できます。例えば、「名」を「姓」の前に移動したりします。注: こ</p>

「フィールド・マッピング」タブ (Eメール・プロセス)	
	<p>のリストのフィールドの順序によって、コンタクト・リストを作成するために生成されるコンマ区切り値 (CSV) ファイルのフィールドの順序が決まります。</p> <p>特定のレコードのフィールド値が欠落していると、コンタクト・リストの該当するフィールドが空になります。例えば、Campaign の ZIP フィールドを Engage の「郵便番号」フィールドにマップした場合に、特定の顧客の「郵便番号」フィールドが空になっていると、コンタクト・リストの作成に使用されるコンマ区切り値 (CSV) ファイルの該当するフィールドにデータが取り込まれません。</p> <p>マッピングが完了したら、同期フィールドとして使用する 1 つまたは複数のフィールドの「同期」列にあるチェック・マーク <input checked="" type="checkbox"/> をクリックします。同期フィールドを選択しない場合は、デフォルトで <code>campaignaudienceld</code> が同期フィールドとして使用されます。</p>
プロファイル	<p>これを使用して、Campaign のデータベース・フィールドに保管されている実際の値を確認できます。そのためには、「選択フィールド」を選択し、「プロファイル」をクリックします。すべての値を確認できるように、プロファイルの作成が完了するまで待ってください。例えば、「Eメール」というフィールドのプロファイルを作成すると、そのフィールドに保管されている Eメール・アドレスのリストが表示されます。</p>
ユーザー定義フィールド	<p>オプションで、「ユーザー定義フィールド」ボタンをクリックして、照会、セグメント化、ソート、計算、またはテーブルへの出力提供に使用する新しい変数を作成します。ユーザー定義フィールドは、データ・ソースには存在しない変数であり、1 つ以上の既存のフィールド (データ・ソースが異なる場合でも) から作成されます。</p>

8. Eメール・プロセスの「全般」タブを構成します。

「全般」タブ (Eメール・プロセス)	
プロセス名	<p>記述名を割り当てます。プロセス名は、フローチャートでボックス・ラベルとして使用されます。また、さまざまなダイアログやレポートでプロセスを識別するためにも使用されます。この名前は顧客には表示されません。</p>
Note	<p>作成者または他の Campaign ユーザーにこのプロセスの目的または結果をわかりやすく伝えるための情報を指定します。フローチャート内のプロセス・ボックス上にカーソルを置くと、このフィールドの内容が表示されます。この注記は顧客には表示されません。</p>

9. 「OK」をクリックして、構成ダイアログを保存して閉じます。

10. フローチャートを保存します。

これで、テスト実行のための準備が整いました。[Eメール: テスト実行\(41 ページ\)](#) を参照してください。テスト実行は、世界中にメールを送信する前にそのメール配信が適切に構成されていることを確認する機会であるため、重要です。

E メール: テスト実行

このタスクは、Unica Campaign を使用して Acoustic Campaign から E メール通信を送信する場合のタスクです。実稼働実行に取りかかる前にテスト実行を行うことは大切です。

テスト実行は、メールを顧客に配信する前にそのメールが適切に構成されていることを確認する機会であるため、極めて重要です。実稼働実行を実施する前に、必ず、テスト実行を実施してください。


通常は、Unica Campaign フローチャートで E メール・プロセスの構成が完了したら、テスト実行を実施します。

テスト実行の目的は、Unica Campaign と Acoustic Campaign の連携を確認し、Acoustic Campaign で E メールをいくつか抜き取り検査することです。例えば、Unica Campaign を使用して E メール・テンプレートの件名をオーバーライドした場合は、正しく置換されていることを確認する必要があります。


Unica Campaign のテスト実行で本番の E メールが顧客に送信されることはありません。「**E メールをただちにすべての連絡先に送信する**」(Eメールの構成ダイアログ)にチェック・マークを付けた場合でも同じです。

! **重要:** Eメールのテスト実行の実施方法について詳しくは、IBM Marketing Cloud の資料を参照してください。このトピックでは、プロセスの一部 (Unica Campaign から Acoustic Campaign へのテスト) についてのみ説明します。

1. Unica Campaign を使用して、構成した E メール・プロセスが含まれているフローチャートを (編集モードで) 開きます。
2. テスト実行の対象を数レコードだけに制限します。この制限は、テスト実行が完了した後に解除します。

 **注:** この手順は推奨されていますが必須ではありません。

テスト実行を制限しない場合、テスト実行の際にコンタクト・リストの全体が Acoustic Campaign に送信されます。これは不必要で、時間がかかります。

- a. Eメール・プロセスに入力を提供するプロセス・ボックスをダブルクリックします。例えば、選択プロセスを Eメール・プロセスに接続した場合は、その選択プロセスの構成ダイアログを開きます。
 - b. 「**セル・サイズの制限**」タブを選択します。
 - c. 「**テスト実行時の出力セル・サイズ上限**」の「**出力セル・サイズの上限指定**」オプションを使用して、レコードの数を制限します。通常、テスト実行では 5 個か 10 個のレコードで十分です。
3. フローチャートを保存します。
 4. 「**実行**」メニュー  を開き、「**テスト実行**」のいずれかのオプションを使用して、フローチャート、ブランチ、またはプロセスのテスト実行を実施します。

コンタクト・リストが Acoustic Campaign に送信されますが、Eメールは送信されません (「**Eメールをただちにすべての連絡先に送信する**」を選択したかどうかは関係ありません)。

5. Acoustic Campaign で、テスト・メール配信機能を使用してテスト Eメールを送信し、Eメールの内容およびコンタクト・リストが正しいことを確認します (通常テストまたはクイック・テストを実行できます。ただし、クイック・テストでは HTML メールが送信されますが、テキストのみのメールは送信されません。) テスト・メールは通常、「ブラック・ホール」アドレスまたは内部のマーケット担当者の Eメール・アドレスに送信されます。

Unica Campaign で選択したすべての内容がテスト E メールに正確に反映されていることを確認してください。例:

- Unica Campaign の件名を変更したり、変数を静的値に置換したりした場合は、テスト E メールでそれらが正しく行われていることを確認します。
- Acoustic Campaign のコンタクト・リストに、Unica Campaign の必要なフィールドがすべて含まれていることを確認します。
- Unica Campaign で選択した内容に基づいてコンタクト・リストが作成または更新されたことを確認します。
- Acoustic Campaign の「送信済み」タブの正しいフォルダーに、送信されたテスト E メールが保存されたことを確認します。

6. IBM Marketing Cloud 資料のすべての手順に従って、E メールが適切に作成されたことを確認します。

エラーが発生した場合は、解決してからテスト実行を再実施します。テスト実行の結果に問題がなければ、実稼働実行を実施できます。[Eメール: 実稼働実行\(42 ページ\)](#) を参照してください。

E メール: 実稼働実行

このタスクは、Unica Campaign を使用して Acoustic Campaign から E メール通信を送信する場合のタスクです。


実稼働実行を実施する前に、必ず、テスト実行を行ってください。[Eメール: テスト実行\(41 ページ\)](#) を参照してください。

フローチャートに複数のチャンネルが含まれている場合は、すべてのチャンネル (SMS、プッシュ、E メール) のテスト実行が完了するまで、フローチャート全体の实稼働実行は行わないでください。

実稼働実行を行うと、Unica Campaign から Acoustic Campaign にコンタクト・リストがアップロードされます。「**E メールをただちにすべての連絡先に送信する**」ように E メール・プロセスを構成した場合は、リスト内のすべてのコンタクトに E メールが送信されます。このオプションを選択しなかった場合、E メールは送信されないため、Acoustic Campaign でメール配信をスケジュールする必要があります。

実稼働実行では、Unica Campaign フローチャートで選択されたオーディエンス・セグメントに E メールが送信されます。

1. Unica Campaign で、構成した E メール・プロセスが含まれているフローチャートを (編集モードで) 開きます。
2. 選択されたすべてのコンタクトに E メールをただちに送信するかどうかについて最終的に決定します。E メール・プロセスをダブルクリックして、構成ダイアログを開きます。「**コンテンツのカスタマイズ**」タブを選択して、以下のように選択を行います。
 - 実稼働モードでフローチャートを実行してすぐに E メールを配信する場合は、「**E メールをただちにすべての連絡先に送信する**」にチェック・マークを付けます。
 - Acoustic Campaign でメール配信をスケジュールする場合は、「**E メールをただちにすべての連絡先に送信する**」をクリアします。コンタクト・リストが Acoustic Campaign に送信されますが、E メールは送信されません。

3. フローチャートを保存します。
4. 「実行」メニュー  を開き、「保存して実行」のいずれかのオプションを選択し、選択したプロセス、ブランチ、またはフローチャートの実稼働実行を行います。あるいは、Unica Marketing Platform スケジューラーを使用して、フローチャートをスケジュールします。

Unica Campaign から Acoustic Campaign にコンタクト・リストが送信されます。「E メールをただちにすべての連絡先に送信する」を選択した場合は、コンタクト・リスト内のすべての受信者に E メールがただちに送信されます。

コンタクト・リストが Acoustic Campaign にアップロードされると、E メール・プロセス・ボックスで定義された「フィールド・マッピング」に基づき、Unica Campaign フィールドの値を使用して、Acoustic Campaign データベースの対応するフィールドが更新されます。例えば、(Unica Campaign の) `FirstName` フィールドを Acoustic Campaign の `CustomerFirstName` フィールドにマップした場合、Acoustic Campaign は、新たに更新された `CustomerFirstName` フィールドを使用して E メール・テンプレートにデータを設定します。

E メール・プロセス・ボックスの「E メールをただちにすべての連絡先に送信する」にチェック・マークを付けた場合は、Acoustic Campaign に移動し、「送信済み」タブを使用して、メール配信が正しく送信されたことを確認してください。

「E メールをただちにすべての連絡先に送信する」にチェック・マークを付けなかった場合は、Acoustic Campaign のコンタクト・リストは更新されていますが、メール配信は送信されていません。Acoustic Campaign を使用してメール配信をスケジュールまたは送信する必要があります。

E メール: レスポンス・トラッキング

Unica Campaign と Acoustic Campaign の統合によって実行されるレスポンス・トラッキングにより、マーケティング担当者はレスポンスと非レスポンスについて、対象者としてのその設定を再調整することができます。

レスポンス・トラッキングをサポートするための前提条件

- UBX Toolkit がインストールされ、構成されていること。
- UBX Toolkit を使用してレスポンス・トラッキング・テーブルが作成されていること。
- Unica Campaign 管理者がレスポンス・トラッキング・テーブルをユーザー・データ・ソースとして構成していること。

トラッキングの仕組み

Acoustic Campaign は、Eメールの送信、配信、およびレスポンスについての情報を記録します。この情報は UBX に提供されます。

UBX から Unica Campaign に情報を取得するには、UBX Toolkit スクリプトを実行して、イベント・データをダウンロードし、レスポンス・トラッキング・テーブルにインポートします。

そして、それらのテーブルをユーザー・データ・ソースとして Unica Campaign フローチャートで利用できます。

組織によっては、管理者がセットアップしたスクリプトによって、レスポンス・データのルーティングが自動化されている場合があります。スクリプトが Unica Campaign リスナー (Analytics) サーバー上にある場合は、スクリプトを実行するトリガーを呼び出すフローチャートを作成し、Unica Marketing Platform スケジューラーを使用してト

リガーをスケジュールすることができます。スケジューラーでも外部スクリプトを実行できるため、この方法を使用することもできます。

レスポンス・ルーティングが自動化されていない場合は、スクリプトを定期的に手動で実行する必要があります。

レスポンスを特定のメール配信および Unica Campaign に相関付ける処理は、統合環境によって行われます。Unica Campaign は各メール配信に固有の名前を割り当てます。その固有の名前は Unica Campaign との関連付けのために Acoustic Campaign イベントに含められます。固有の名前は、フローチャート上でプロセス・ボックスに割り当てた E メール名に基づいて生成されます。

Unica Campaign で E メール・プロセスを実行すると、Unica Campaign オファーに割り当てられた E メール・テンプレートを使用して E メールが送信されます。Acoustic Campaign で E メール・プロセスを実行して E メールを送信すると、Acoustic Campaign は、E メール・テンプレートに含まれている割り当てられたオファーごとに処理を生成します。この処理に関する情報は、Unica Campaign の UA_TREATMENT テーブルに保持されます。その処理情報が、処理のコンタクト情報とレスポンス情報を Unica Campaign のコンタクト履歴テーブルとレスポンス履歴テーブルに保存するときに使用されます。

トラッキングされるイベント

以下の E メール・イベントについての情報をレスポンス・トラッキング・テーブルにインポートし、Unica Campaign で利用することができます。

- Eメールの送信 (emailSend): 製品またはブランドに関連する Eメールの送信についての情報。
- Eメールを開く (emailOpen): 製品またはブランドに関連する Eメールに対して行われた個々の開く操作についての情報。
- Eメール・クリック (emailClick): Eメール内のリンクに対して行われた個々のクリック操作についての情報。
- Eメール・バウンス (emailBounce): 正常に配信されなかった Eメールについての情報。
- Email Optout(emailoptout): Eメール通信からのオプトアウトに関連する情報。


Acoustic Campaign からのレコードの CH/RH 更新

1. 「Eメールをただちにすべての連絡先に送信する」フラグが設定された Campaign から (1つのオファーが割り当てられた Eメール・プロセス・ボックスに) Eメールが送信された場合。->処理コードが生成され、CH/RH が取り込まれます。
2. 「Eメールをただちにすべての連絡先に送信する」フラグが設定されていない Campaign から (1つのオファーが割り当てられた Eメール・プロセス・ボックスに) Eメールが送信された場合。->処理コードは生成されず、CH/RH は更新されません。UA_emailOpen、UA_emailClick、UA_emailSend、UA_emailBounce のみが取り込まれます。
3. 「Eメールをただちにすべての連絡先に送信する」フラグが設定されていない Campaign から (オファーが割り当てられていない Eメール・プロセス・ボックスに) Eメールが送信された場合。->処理コードは生成されず、CH/RH は更新されません。UA_emailOpen、UA_emailClick、UA_emailSend、UA_emailBounce のみが取り込まれます。

マーケット担当者がこれらのテーブルにデータを取り込んで使用する方

UBX からイベントを定期的にダウンロードし、ローカルのレスポンス・トラッキング・テーブルにインポートする必要があります。スクリプトは手動で実行するか、スケジュールされたジョブとして実行できます。

1. イベントをダウンロードするには、UBX Toolkit に付属している eventsDownload スクリプトを実行します。

 **注:** eventsDownload スクリプトは、Eメール、SMS メッセージ、およびモバイル・プッシュ通知に関連したトラッキング・データをダウンロードします。これらの機能については、すべてを使用している場合もあれば、そうでない場合もあるでしょう。

2. ダウンロードしたイベントをレスポンス・トラッキング・テーブルにインポートするには、UBX Toolkit に付属している eventsImport スクリプトを実行します。
3. UBX Toolkit の資料に記載されているすべての指示に従ってください。特に、「Chapter 3. Event destination endpoints」を参照してください。
4. テーブルにデータが取り込まれたら、Unica Campaign フローチャートでそのテーブルを利用して、レスポンス・ユーザーおよび非レスポンス・ユーザーを再度ターゲットにすることができます。

通常は、レスポンス・フローチャートを設計し、レスポンス・トラッキング・テーブルからデータを読み取るためのプロセス・ボックスを構成します。例えば、Unica Campaign の次のウェブを実装するときに、メッセージを開いたユーザーまたはクリックしたユーザーをターゲットにするように「選択」または「抽出」プロセス・ボックスを構成できます。

5. 詳細については、[統合のレスポンス・トラッキング・テーブル\(68 ページ\)](#)を参照してください。


SMS テキスト・メッセージング: Campaign と Acoustic Campaign の使用

Unica Campaign が Acoustic Campaign と統合されている場合、Unica Campaign を使用することにより Acoustic Campaign から SMS テキスト・メッセージを送信することができます。

Eメール・プロセスの使用に関する注意点を以下にまとめます。

- SMS テキスト・メッセージは、2 台以上の携帯電話の間で送信される簡略メッセージです。
- SMS テキスト通知を送信するには、Unica Campaign ユーザーと Acoustic Campaign ユーザーの間で作業の調整が必要になります。テンプレートをセットアップし、テスト実行を実施し、最終的な実稼働実行を調整する必要があります。
- SMS メッセージ送信先の番号が重複する場合には、Acoustic Campaign により重複が解消されます。同じ電話番号のコンタクト・レコードが 2 つあり、同じプログラムに対してその両方がオプトインされた場合、Acoustic Campaign は 1 つのメッセージのみ送信します。
- テキスト通知送信後、Acoustic Campaign でレスポンスがトラッキングされ、UBX および UBX Toolkit を介して Unica Campaign に返されます。
- レスポンス・データを Acoustic Campaign から Unica Campaign に戻すためには、UBX Toolkit ユーザー (通常は Unica Campaign ユーザー) がスクリプトを実行します。組織によっては、スクリプトを自動化して、データ経路指定が自動的に行われるようにしています。

- その上で Unica Campaign を使用することにより、レスポnderと非レスポnderのターゲット設定を再度行うことができます。
- SMS プロセスは、整数形式のコンタクト番号を受け入れます。スペースまたはダッシュを含む番号、および NULL は、失敗してプロセスがエラーになります。


 **注:** SMS メッセージを送信するには、SMS プロセス・ボックスでメッセージの配信を構成するか、または IBM Marketing Cloud の送信エクスペリエンスを使用する必要があります。IBM Marketing Cloud プログラムによる SMS メッセージのトリガーは、Unica Campaign 統合ではサポートされていません。

SMS モバイル・メッセージングの有効化

Acoustic Campaign が SMS メッセージを送信できるようにするため、一回限りのセットアップ・タスクをいくつか実行する必要があります。

このタスクでは、SMS モバイル・メッセージングを有効にするために必要な主要なステップの概要を示します。手順に関する完全な情報が提供されているわけではありません。

1. Acoustic Campaign プロビジョニング・チームが、Acoustic Campaign 組織のために SMS を有効にします。
2. Acoustic Campaign 組織管理者が Acoustic Campaign にログインし、SMS 用の Acoustic Campaign データベースを作成し、有効にします。そのデータベースは、柔軟なデータベースでなければなりません。

 **注:** 統合環境で E メール・チャンネル、SMS チャンネル、およびプッシュ・チャンネルを使用する場合は、チャンネルごとに別のデータベースを使用してください。

3. Acoustic Campaign 組織管理者が、Acoustic Campaign と SMS Unica Campaign Manager の間の SMS 統合を構成します。

SMS メッセージ送信の要件

Acoustic Campaign による SMS メッセージで顧客と連絡を取るには、特定の要件を満たしていなければならない、また、SMS メッセージを巡る重要な制限について理解しておく必要があります。

SMS: SMS テキスト・メッセージの作成および送信

Unica Campaign を使用して Acoustic Campaign から SMS テキスト・メッセージを送信するには、次の手順を実行します。

- 組織の SMS モバイル・メッセージングを有効にする必要があります。[SMS モバイル・メッセージングの有効化\(46 ページ\)](#) を参照してください。
- SMS メッセージで顧客にコンタクトを取るには、法律上の要件および規制に従う必要があります。[SMS メッセージ送信の要件\(46 ページ\)](#) を参照してください。

1. Acoustic Campaign を使用して、SMS テキスト・メッセージを作成します。

以下のガイドラインに従ってください。

- SMS テンプレートに、それが属する Unica Campaign にとって意味がある名前を付けます。これにより、両方のアプリケーションでテンプレートを識別しやすくなります。
 - 「**コンタクト・ソース**」で、「データベース」、「連絡先リスト」または「照会」を選択します。
 - 「**テンプレートの場所**」で、「共有」を選択します。**Unica Campaign では、共有テンプレートのみ使用可能です。**
 - テンプレートを保存した後、テストのために必ずプレビューしてください。
2. Unica Campaign を使用して、キャンペーンを作成し、フローチャートを追加します。
詳しくは、「Unica Campaign ユーザー・ガイド」を参照してください
 3. Unica Campaign フローチャートに SMS プロセスを構成します。
[SMS: Unica Campaign フローチャートでの SMS プロセスの構成\(47 ページ\)](#) を参照してください。
 4. Unica Campaign でテスト実行を実施します。
[SMS: テスト実行\(52 ページ\)](#) を参照してください。
 5. Unica Campaign で実稼働実行を実施します。
[SMS: 実稼働実行\(53 ページ\)](#) を参照してください。
 6. レスポンス・トラッキングを実行します。
[SMS: レスポンス・トラッキング\(55 ページ\)](#) を参照してください。

SMS: Unica Campaign フローチャートでの SMS プロセスの構成

Unica Campaign と Acoustic Campaign が統合されている場合、フローチャートに **SMS** プロセスを構成して、SMS テキスト・メッセージを送信できます。

このタスクを実行する前に、以下の操作を実行する必要があります。

- Unica Campaign 内: マーケティング・キャンペーンを作成し、フローチャートを追加します。
- Acoustic Campaign 内: SMS のテンプレートおよび本文を作成します。
- Acoustic Campaign ユーザーは Unica Campaign ユーザーに以下の情報を提供する必要があります。
 - Unica Campaign で生成されるコンタクト・リストのために使用する Acoustic Campaign データベースの名前。これは、メッセージの送信に使用する特定の SMS チャンネル用のデータベースです。
 - Acoustic Campaign データベース表のフィールドのリスト。各フィールドのデータ・タイプ(テキスト、日付、時刻など)とデータ形式の例を含むもの。
 - Acoustic Campaign SMS テンプレートの名前。
 - (フローチャートの実行時に) コンタクト・リストを新規作成するか、それとも既存のものを更新するか。
 - 既存の SMS 名を新しい名前(例えば、メッセージの送信に使用されたフローチャートを示すもの)でオーバーライドするかどうか。
 - Unica Campaign フローチャートを実稼働モードで実行した場合にただちに SMS テキスト・メッセージを送信するかどうか。

フローチャートには複数のチャンネル (E メール、SMS、プッシュ) を含めることができますが、チャンネルごとに別のプロセスとして構成する必要があります。このトピックでは、Unica Campaign フローチャートで SMS プロセス・ボックスを使用する方法について説明します。

注: SMS メッセージを送信するには、SMS プロセス・ボックスでメッセージの配信を構成するか、または IBM Marketing Cloud の送信エクスペリエンスを使用する必要があります。IBM Marketing Cloud プログラムによる SMS メッセージのトリガーは、Unica Campaign 統合ではサポートされていません。



1. SMS テキスト・メッセージング Unica Campaign で使用するセグメントを選択するためのプロセスをフローチャートに構成します。他のフローチャートと同様に、「選択」、「セグメント」、「マージ」などの複数のプロセスを使用できます。
2. フローチャートに SMS プロセスを追加します。SMS プロセスは、フローチャート内の最後のプロセスでなければなりません。
3. ステップ 1 で作成した少なくとも 1 つのプロセスを、入力として SMS プロセスに接続します。例:
 - 単一の選択プロセス (25 歳から 31 歳までのすべての男性など) を SMS プロセスに接続します。
 - 複数の選択プロセス (高価値、中価値、および低価値のコンタクトなど) を SMS プロセスに接続します。
 - 顧客を地理別のセグメントに分け、セグメントごとに別の SMS プロセスに接続します (地域別にメッセージを配信するために複数の固有のリストが生成されます)。
4. SMS プロセスをダブルクリックして、「**SMS プロセス構成**」ダイアログを開きます。
5. SMS プロセスの「**Acoustic Campaign プロパティ**」タブを構成します。

「Engage プロパティ」タブ (SMS プロセス)	
Engage データベース	<p>必須。コンタクト・リストに関連付けられた、柔軟な Engage データベースを選択します。すべての共有 Engage データベースがリストされます。SMS チャンネルに使用する柔軟なデータベースを選択する必要があります。</p> <p>統合環境で E メール・チャンネル、SMS チャンネル、およびプッシュ・チャンネルを使用する場合は、チャンネルごとに別のデータベースを使用してください。</p>
選択された入力セル	<p>必須。SMS テキスト・メッセージを受け取るセグメントを選択します。表示される入力セルは、SMS プロセスに接続されたプロセス・ボックス (選択やセグメントなど) によって異なります。例えば、2 つの選択プロセスが 1 つの SMS プロセスへの入力を提供する場合は、2 つの入力セルがリストされます。通常は、すべての入力セルを選択します。その後、選択したセルのすべての ID が、コンタクト・リストの作成に使用できるようになります。</p>
すべて選択	<p>リストされているすべての入力セル (SMS プロセスへの入力として接続されているセグメント) を素早く選択します。</p>
すべてクリア	<p>選択のリストを素早くクリアします。</p>


「Engage プロパティ」 タブ (SMS プロセス)	
単一のコンタクト・リストを使用	<p>プロセスが実行されるたびに毎回同じコンタクト・リストを使用する場合は、「単一のコンタクト・リストを使用」を選択します。その後、Engage コンタクト・リストを選択します。リスト内のすべてのコンタクトが含まれます。</p> <p>新規の実行でリストを再利用する前にリストからすべてのコンタクトを削除する場合は、「コンタクト・リストを消去してから更新」にチェック・マークを付けます。</p> <p>以下のコントロールを使用して、後続の各実行でコンタクト・リストを更新する方法を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 常に新しいコンタクトを追加: 一致するコンタクトを更新しません。リストにないコンタクトが Unica Campaign データに含まれている場合は、それらをリストに追加します。 • 一致するコンタクトを更新します。見つからないコンタクトはスキップします: 既存のコンタクトを Unica Campaign のデータで更新します。新しいコンタクトはリストに追加されません。 • 一致するコンタクトを更新します。見つからないコンタクトを追加します: 既存のコンタクトを Unica Campaign のデータで更新します。リストにないコンタクトは追加されます。 <p>プロセス・ボックスのテスト実行や実稼働実行を行うと、コンタクト・リストが作成または更新されます。リスト内のすべてのコンタクトが含まれます。</p>
実行するたびに新しいコンタクト・リストを作成	<p>プロセスを実行するたびに新しいコンタクト・リストを作成する場合は、「実行するたびに新しいコンタクト・リストを作成」を選択します。リスト内のすべてのコンタクトが含まれます。</p> <p>コンタクト・リストの「名前」を指定します。</p> <p>「サフィックスの追加」または「プレフィックスの追加」を選択して、タイム・スタンプをファイル名の先頭または末尾のどちらに含めるかを指定します。リスト名を固有にするために、必ず、プロセス実行のタイム・スタンプが追加されます。</p> <p>オプションで、Unica Campaign ID または SMS セル名、あるいはその両方をファイル名の一部として追加できます。</p>


6. SMS プロセスの「**コンテンツのカスタマイズ**」タブを構成します。

「コンテンツのカスタマイズ」 タブ (SMS プロセス)	
SMS テンプレート	<p>必須。Engage SMS テンプレートを選択します。すべての共有テンプレートがリストされます。テンプレートは、SMS テキスト・メッセージのコンテンツを決定します。このダイアログ・ボックスで変更を行わない場合、すべての内容がテンプレートからそのまま取り込まれます。ここで加えた変更は、テンプレートの内容をオーバーライドします。変更内容はテンプレートに保存されませんが、このプロセス・ボックスの現在の実行で送信される SMS テキスト・メッセージで使用されます。</p>

「コンテンツのカスタマイズ」タブ (SMS プロセス)	
SMS 名	<p>必須。SMS 名は、Engage と Unica Campaign でのメール配信を識別します。ここに指定する名前が、Engage テンプレートに指定されている SMS 名 の代わりに使用されます。メッセージの目的とそのフローチャートが分かる名前を使用して、後に容易に識別できるようにしてください。静的テキストのみを使用してください (変数は使用しないでください)。この名前は受信者には表示されません。</p> <p>レスポンス・トラッキングをサポートするために、プロセス実行時にプロセス実行のタイム・スタンプが名前に追加されます。これにより、すべてのプロセス実行の SMS 名が固有になります。また、レスポンスをトラッキングするために Unica Campaign コードも含まれます。この固有の SMS 名は、Engage によって生成されるすべてのイベントに含まれるので、レスポンスの関連付けに使用されています。</p> <p> 注: 「SMS 名」に使用できる最大文字数は 256 です。これには、付加されるタイム・スタンプ、および接頭部として追加される Unica Campaign コードが含まれます。「SMS 名」の文字数が 256 を超える場合は、ユーザーが入力した名前が切り捨てられます。</p>
SMS をただちにすべての連絡先に送信する	<p> 重要: このオプションを使用すると、Unica Campaign で実稼働実行を行ったときにただちに SMS メッセージがすべての受信者に送信されます。先にテスト実行を行うことをお勧めします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「SMS をただちにすべての連絡先に送信する」オプションは、「SMS テンプレート」を選択した場合にのみ使用可能です。 • 「SMS をただちにすべての連絡先に送信する」にチェック・マークを付けると、Unica Campaign で実稼働実行を行ったときにメッセージがすべての受信者に送信されます。(Unica Campaign のテスト実行では、このオプションを選択するかどうかにかかわらず、送信は行われません)。 • IBM Engage を使用してメッセージを送信する場合には、このオプションのチェック・マークを外したままにしてください。このオプションにチェック・マークを付けない場合、Unica Campaign で実稼働実行を行うと、コンタクト・リストが Engage にアップロードされますが、SMS メッセージは送信されません。その後、Engage からの送信を開始/スケジュールできます。

7. SMS プロセスの「フィールド・マッピング」タブを構成します。

「フィールド・マッピング」タブ (SMS プロセス)	
最新表示 	<p>選択した「Engage データベース」のテーブル・フィールド情報をリフレッシュします。新しいフィールドを Engage データベースに追加したり、既存のフィールドを変更したりした場合に、このオプションを使用してください。</p>

「フィールド・マッピング」タブ (SMS プロセス)	
	<p> 重要: フィールド情報が変更された場合は、すべてのテーブル列マッピング情報が削除されます。最新表示が完了した後にすべてのフィールド・マッピングを確認する必要があります。</p>
候補フィールド	<p>このリストには、SMS プロセスに入力を提供するすべてのプロセスのすべての使用可能フィールドが表示されます。これらは、Unica Campaign のデータベースまたはフラット・ファイルに格納されている、コンタクト名、住所、人口統計、購入履歴などの情報のデータを含む Unica Campaign のフィールドです。</p>
Engage にエクスポートするフィールド	<p>このリスト内のフィールドは、Engage コンタクト・リストを作成または更新するためのデータを提供します。Unica Campaign のデータベースまたはフラット・ファイルから、マップされたフィールドの値が取得されます。</p> <p>例えば、Unica Campaign のフィールド <code>FirstName</code> を Engage のフィールド <code>CustomerFirstName</code> にマップすると、Unica Campaign の <code>FirstName</code> フィールドの値が取得されます。コンタクト・リストが Engage にアップロードされる時、Campaign の <code>FirstName</code> フィールドの値が Engage データベースの <code>CustomerFirstName</code> フィールドを更新するために使用されます。その後、Engage は SMS テンプレートにデータを設定する際に、新しく更新された <code>CustomerFirstName</code> フィールドを使用します。</p> <p>Campaign の候補フィールドを Engage にエクスポートするフィールドにマップする場合、マップ対象のフィールドで、テキスト、日付、時刻など、同じフィールド・タイプ (データ・タイプ) が使用されていることを確認します。データ・タイプが一致しない場合、システムが候補フィールドの値をマップ対象の Engage データベース・フィールドにインポートしようとしたときにエラーが発生します。</p> <p>このリスト内のフィールドの順序が Engage のコンタクト・リスト内のフィールドの順序と一致するようにしてください。矢印アイコンを使用して、選択したフィールドをリスト内で上下に移動できます。例えば、「名」を「姓」の前に移動したりします。注: このリストのフィールドの順序によって、コンタクト・リストを作成するために生成されるコンマ区切り値 (CSV) ファイルのフィールドの順序が決まります。</p> <p>特定のレコードのフィールド値が欠落していると、コンタクト・リストの該当するフィールドが空になります。言い換えると、コンタクト・リストの作成に使用されるコンマ区切り値 (CSV) ファイルの該当するフィールドにデータが取り込まれません。</p>
プロファイル	<p>これを使用して、Campaign のデータベース・フィールドに保管されている実際の値を確認できます。そのためには、「選択フィールド」を選択し、「プロファイル」をクリックします。すべての値を確認できるように、プロファイルの作成が完了するまで待ってください。例えば、「姓」というフィールドのプロファイルを作成すると、そのフィールドに保管されている名前のリストが表示されます。</p>
ユーザー定義フィールド	<p>オプションで、「ユーザー定義フィールド」ボタンをクリックして、照会、セグメント化、ソート、計算、またはテーブルへの出力提供に使用する新しい変数を作成しま</p>

「フィールド・マッピング」タブ (SMS プロセス)	
	す。ユーザー定義フィールドは、データ・ソースには存在しない変数であり、1 つ以上の既存のフィールド (データ・ソースが異なる場合でも) から作成されます。

8. SMS プロセスの「全般」タブを構成します。

「全般」タブ (SMS プロセス)	
プロセス名	記述名を割り当てます。プロセス名は、フローチャートでボックス・ラベルとして使用されます。また、さまざまなダイアログやレポートでプロセスを識別するためにも使用されます。この名前は顧客には表示されません。
Note	このプロセスの目的や結果をわかりやすく伝える情報を提供します。フローチャート内のプロセス・ボックス上にカーソルを置くと、このフィールドの内容が表示されます。この注記は顧客には表示されません。

9. 「OK」をクリックして、構成ダイアログを保存して閉じます。
10. フローチャートを保存します。

これで、テスト実行のための準備が整いました。[SMS: テスト実行\(52 ページ\)](#) を参照してください。テスト実行は、世界中にテキスト・メッセージを送信する前にそのテキスト・メッセージが適切に構成されていることを確認する機会であるため、重要です。

SMS: テスト実行

このタスクは、Unica Campaign を使用して Acoustic Campaign から SMS テキスト・メッセージを送信する場合のタスクです。実稼働実行に取りかかる前にテスト実行を行うことは大切です。

テスト実行は、テキスト・メッセージを顧客に送信する前にそれが適切に構成されていることを確認する機会となるため、非常に大切です。実稼働実行を実施する前に、必ず、テスト実行を実施してください。


通常は、Unica Campaign フローチャートで SMS プロセスの構成が完了したら、テスト実行を実施します。

テスト実行の目的は、Unica Campaign と Acoustic Campaign の連携を確認し、Acoustic Campaign でテキスト・メッセージをいくつか抜き取り検査することです。例えば、Unica Campaign を使用して SMS テンプレートの件名をオーバーライドした場合は、正しく置換されていることを確認する必要があります。

Unica Campaign のテスト実行で本番の SMS テキスト・メッセージが顧客に送信されることはありません。「SMS をただちにすべての連絡先に送信する」(SMS の構成ダイアログ) にチェック・マークを付けた場合でも同じです。

! **重要:** SMS テスト実行について詳しくは、IBM Marketing Cloud の文書を参照してください。このトピックでは、プロセスの一部 (IBM Unica Campaign から Acoustic Campaign へのテスト) についてのみ説明します。


1. Unica Campaign を使用して、構成した SMS プロセスが含まれているフローチャートを (編集モードで) 開きます。
2. テスト実行の対象を数レコードだけに制限します。この制限は、テスト実行が完了した後に解除します。

 **注:** この手順は推奨されていますが必須ではありません。

テスト実行を制限しない場合、テスト実行の際にコンタクト・リストの全体が Acoustic Campaign に送信されます。これは不必要で、時間がかかります。

- a. SMS プロセスへの入力を提供するプロセス・ボックスをダブルクリックします。例えば、選択プロセスが SMS プロセスに接続されている場合、選択プロセスの構成ダイアログを開きます。
- b. 「セル・サイズの制限」タブを選択します。
- c. 「テスト実行時の出力セル・サイズ上限」の「出力セル・サイズの上限指定」オプションを使用して、レコードの数を制限します。通常、テスト実行では 5 個か 10 個のレコードで十分です。

3. フローチャートを保存します。

4. 「実行」メニュー  を開き、「テスト実行」のいずれかのオプションを使用して、フローチャート、ブランチ、またはプロセスのテスト実行を実施します。

コンタクト・リストが Acoustic Campaign に送信されますが、SMS は送信されません (「SMS をただちにすべての連絡先に送信する」を選択したかどうかは関係ありません)。

5. Acoustic Campaign で、テスト・メール配信機能を使用してテスト SMS を送信し、テキストの内容およびコンタクト・リストが正しいことを確認します。テスト・メール配信は、通常は「ブラック・ホール」アドレスや社内のマーケティング担当者のアドレスに送信されます。

Unica Campaign で選択したすべての内容がテスト・テキスト・メッセージに正確に反映されていることを確認してください。例:

- Acoustic Campaign のコンタクト・リストに、Unica Campaign の必要なフィールドがすべて含まれていることを確認します。
- Unica Campaign で選択した内容に基づいてコンタクト・リストが作成または更新されたことを確認します。
- Acoustic Campaign の「送信済み」タブの正しいフォルダーに、送信されたテスト E メールが保存されたことを確認します。

IBM Marketing Cloud の文書に記載されているすべての指示に従って、SMS テキスト・メッセージが適切に準備されたことを確認します。

エラーが発生した場合は、解決してからテスト実行を再実施します。テスト実行の結果に問題がなければ、実稼働実行を実施できます。[SMS: 実稼働実行\(53 ページ\)](#) を参照してください。

SMS: 実稼働実行


このタスクは、Unica Campaign を使用して Acoustic Campaign から SMS テキスト・メッセージを送信する場合のタスクです。

実稼働実行を実施する前に、必ず、テスト実行を行ってください。[SMS: テスト実行\(52 ページ\)](#) を参照してください。

フローチャートに複数のチャンネルが含まれている場合は、すべてのチャンネル (SMS、プッシュ、E メール) のテスト実行が完了するまで、フローチャート全体の实稼働実行は行わないでください。

実稼働実行を行うと、Unica Campaign から Acoustic Campaign にコンタクト・リストがアップロードされます。SMS プロセスに「SMS をただちにすべての連絡先に送信する」を構成した場合、テキスト・メッセージはリスト内のすべてのコンタクトに送信されます。このオプションを選択しなかった場合、SMS テキストは送信されないため、Acoustic Campaign で SMS をスケジュールする必要があります。

実稼働実行では、IBM Unica Campaign フローチャートで選択されたオーディエンス・セグメントにテキスト・メッセージが送信されます。

1. Unica Campaign で、構成した SMS プロセスが含まれているフローチャートを (編集モードで) 開きます。
2. 選択されたすべてのコンタクトに E メールをただちに送信するかどうかについて最終的に決定します。そのためには、SMS プロセスをダブルクリックして構成ダイアログを開きます。「コンテンツのカスタマイズ」タブを選択して、以下のように選択を行います。
 - フローチャートが実動モードで実行されたらすぐにテキスト・メッセージを送信する場合は、「SMS をただちにすべての連絡先に送信する」にチェック・マークを付けます。
 - Acoustic Campaign で送信をスケジュールする場合は、「SMS をただちにすべての連絡先に送信する」はクリアします。コンタクト・リストが Acoustic Campaign に送信されますが、テキスト・メッセージは送信されません。
3. フローチャートを保存します。
4. 「実行」メニュー  を開き、「保存して実行」のいずれかのオプションを選択し、選択したプロセス、ブランチ、またはフローチャートの実稼働実行を行います。あるいは、Unica Marketing Platform スケジューラーを使用して、フローチャートをスケジュールします。

Unica Campaign から Acoustic Campaign にコンタクト・リストが送信されます。「SMS をただちにすべての連絡先に送信する」が選択されている場合、コンタクト・リスト内のすべての受信者にテキスト・メッセージが即時に送信されます。

コンタクト・リストが Acoustic Campaign にアップロードされると、SMS プロセス・ボックスで定義された「フィールド・マッピング」に基づき、Unica Campaign フィールドの値を使用して、Acoustic Campaign データベースの対応するフィールドが更新されます。例えば、(Unica Campaign の) `FirstName` フィールドを Acoustic Campaign の `CustomerFirstName` フィールドにマップした場合、Acoustic Campaign は、新たに更新された `CustomerFirstName` フィールドを使用して SMS テンプレートにデータを設定します。

Unica Campaign は SMS プロセス・ボックスを使用して、Watson Unica Campaign Automation (Acoustic Campaign) でモバイル SMS を送信できます。Unica Campaign リリース 11.0 では、Watson Campaign Automation を使用して、Unica Campaign から送信された SMS に対する SMS 返信を追跡できます。SMS 返信メッセージは、UA_InteractedSMS テーブルに追加された新規の列 `MessageBody` で取得されます。

返信が複数ある場合、UA_InteractedSMS テーブルに複数の返信が生成されます (返信ごとに 1 つ)。これらの SMS 返信レコードの「ソース」テーブル列は null です。

Unica Campaign から送信された SMS の場合、「ソース」テーブル列に値「Campaign」が入った状態で UA_InteractedSMS テーブルにレコードが表示されます。

Acoustic Campaign で SMS を送信するには、Text to Join プログラムを使用可能にして、SMS テンプレートに添付する必要があります。Text to Join プログラムには、Acoustic Campaign で返信を受信するために使用するべきキーワードのリストが含まれます。SMS 返信では、これらのキーワードのみを使用します。他のテキストを使用する

SMS 返信またはこれらのキーワードを使用していない SMS 返信は、MGAGE (Acoustic Campaign の基礎をなすサービス・プロバイダー) によって破棄されます。

SMS プロセス・ボックスの「SMS をただちにすべての連絡先に送信する」にチェック・マークを付けた場合は、Acoustic Campaign に移動し、テキスト・メッセージが正しく送信されたことを確認してください。

「SMS をただちにすべての連絡先に送信する」にチェック・マークを付けなかった場合は、Acoustic Campaign のコンタクト・リストは更新されていますが、テキスト・メッセージは送信されていません。Acoustic Campaign を使用してテキスト・メッセージをスケジュールまたは送信する必要があります。

SMS: レスポンス・トラッキング

Unica Campaign と Acoustic Campaign の統合によって実行されるレスポンス・トラッキングにより、マーケティング担当者はレスポンス・トラッキングについて、対象者としてのその設定を再調整することができます。

レスポンス・トラッキングをサポートするための前提条件

- UBX Toolkit がインストールされ、構成されていること。
- UBX Toolkit ユーザーが必要なレスポンス・トラッキング・テーブルを作成していること。
- Unica Campaign 管理者がテーブルをユーザー・データ・ソースとして構成していること。

トラッキングの仕組み

Acoustic Campaign は、SMS の送信、配信、およびレスポンスについての情報を記録します。この情報は UBX に提供されます。

UBX から Unica Campaign に情報を取得するには、UBX Toolkit スクリプトを実行して、イベント・データをダウンロードし、レスポンス・トラッキング・テーブルにインポートします。

そして、それらのテーブルをユーザー・データ・ソースとして Unica Campaign フローチャートで利用できます。

組織によっては、管理者がセットアップしたスクリプトによって、レスポンス・データのルーティングが自動化されている場合があります。スクリプトが Unica Campaign リスナー (Analytics) サーバー上にある場合は、スクリプトを実行するトリガーを呼び出すフローチャートを作成し、Unica Marketing Platform スケジューラーを使用してトリガーをスケジュールすることができます。スケジューラーでも外部スクリプトを実行できるため、この方法を使用することもできます。

レスポンス・ルーティングが自動化されていない場合は、スクリプトを定期的に手動で実行する必要があります。

レスポンスを特定のメール配信および Unica Campaign に関連付ける処理は、統合環境によって行われます。Unica Campaign は各 SMS メール配信に固有の名前を割り当てます。その固有の名前は Unica Campaign との関連付けのために Acoustic Campaign イベントに含められます。固有の名前は、フローチャートのプロセス・ボックスで割り当てられた SMS 名に基づいて生成されます。

トラッキングされるイベント


以下の SMS イベントについての情報をレスポンス・トラッキング・テーブルにインポートし、Unica Campaign で利用することができます。

- SMS プログラムから送信されたメッセージ (sentSMS): SMS プログラムからメッセージが送信される時に生じる事柄を説明する情報。
- SMS プログラムとの対話 (interactedSMS): モバイル・ユーザーと SMS プログラムの間の対話を説明する情報。

マーケット担当者がこれらのテーブルにデータを取り込んで使用する方

UBX からイベントを定期的にダウンロードし、ローカルのレスポンス・トラッキング・テーブルにインポートする必要があります。スクリプトは手動で実行するか、スケジュールされたジョブとして実行できます。

1. イベントをダウンロードするには、UBX Toolkit に付属している eventsDownload スクリプトを実行します。

 **注:** eventsDownload スクリプトは、Eメール、SMS メッセージ、およびモバイル・プッシュ通知に関連したトラッキング・データをダウンロードします。これらの機能については、すべてを使用している場合もあれば、そうでない場合もあるでしょう。

2. ダウンロードしたイベントをレスポンス・トラッキング・テーブルにインポートするには、UBX Toolkit に付属している eventsImport スクリプトを実行します。
3. UBX Toolkit の資料に記載されているすべての指示に従ってください。特に、「Chapter 3. Event destination endpoints」を参照してください。
4. テーブルにデータが取り込まれたら、Unica Campaign フローチャートでそれらのテーブルを利用して、レスポンスと非レスポンスについて、対象者としてのその設定を再調整できます。

通常は、レスポンス・フローチャートを設計し、レスポンス・トラッキング・テーブルからデータを読み取るためのプロセス・ボックスを構成します。例えば、Unica Campaign の次のウェブを実装するときに、SMS 対話をターゲットにするように「選択」または「抽出」プロセス・ボックスを構成できます。

5. 詳細については、[統合のレスポンス・トラッキング・テーブル\(68 ページ\)](#)を参照してください。

Unica Campaign と Acoustic Campaign の間の SMS オプトインおよびオプトアウト同期

SMS の承諾レコードを可能な限り最新の状態に保つため、さまざまなチャネルを介して受信する SMS のオプトイン要求とオプトアウト要求を更新することができます。Unica Campaign と Acoustic Campaign の間で SMS サブスクリプション・データの同期を取るため、オプトインおよびオプトアウトの更新内容を定期的にアップロードおよびダウンロードします。

SMS のオプトインおよびオプトアウトのレコードを管理するには、特定の手順が必要です。contactUpload および contactDownload のスクリプトの OPT_IN オプションと OPT_OUT オプションは、SMS メッセージングには適用されません。その代わりに、Acoustic Campaign ダウンロード・パッケージとの Unica Campaign 統合の一部として提供されるカスタム SMS マッピング・ファイルを使用する必要があります。

受信者のコンタクト情報を初めて追加する際に、レコードはオプトイン・レコードとしてマークが付けられます。個人として SMS による連絡を受けることに同意しなかった場合、それ以降、そのレコードにオプトアウトとしてのマークを付ける必要があります。レコードをオプトアウト・レコードとして追加することはできません。レコードは、オプトインとして入力した後でのみ、オプトアウトとして識別できます。


SMS サブスクリプションを最新の状態に保つため、contactUpload スクリプトと contactDownload スクリプトの自動実行をトリガーする Unica Campaign フローチャートをスケジュールに入れることができます。SMS 承諾ステータスを更新するには、conf ディレクトリー内の example_SMSmappingFile に含まれている手順を使用します。Acoustic Campaign において、オプトインとオプトアウトのステータスを更新する照会をスケジュールに入れて、Unica Campaign へのダウンロードのために最新情報を利用できるようにします。

モバイル・プッシュ: Unica Campaign と Acoustic Campaign の使用

Unica Campaign と Acoustic Campaign が統合されている場合、Unica Campaign を使用して、Acoustic Campaign からモバイル・プッシュ通知を送信できます。

プッシュ・プロセスの使用に関する注意点を以下にまとめます。

- モバイル・プッシュ通知とは、インストールされたモバイル・アプリによって送信されるショート・メッセージです。オファー、更新、およびリマインダーにスマートフォン・ユーザーの注意を向けさせます。プッシュ通知は、一方向の通信チャネルです。ユーザーはメッセージを受信できますが、応答はできません。モバイル・プッシュ通知は、モバイル・アプリ・メッセージとも呼ばれます。
- モバイル・プッシュ通知の送信には、Unica Campaign ユーザーと Acoustic Campaign ユーザーが協同して取り組む必要があります。テンプレートをセットアップし、テスト実行を実施し、最終的な実稼働実行を調整する必要があります。
- プッシュを送信した後、レスポンスが Acoustic Campaign でトラッキングされ、UBX および UBX Toolkit を経由して Unica Campaign に戻されます。
- レスポンス・データを Acoustic Campaign から Unica Campaign に戻すためには、UBX Toolkit ユーザー (通常は Unica Campaign ユーザー) がスクリプトを実行します。組織によっては、スクリプトを自動化して、データ経路指定が自動的に行われるようにしています。
- その後、Unica Campaign を使用して、Unica Campaign の次のウェブを設計できます。
- データが NULL の場合、またはコンタクト番号が NULL の場合は、プッシュ・プロセスのコンタクトは失敗します。


 **注:** プッシュ・メッセージを送信するには、プッシュ・プロセス・ボックスでメッセージの配信を構成するか、または IBM Marketing Cloud の送信エクスペリエンスを使用する必要があります。IBM Marketing Cloud プログラムによるプッシュ・メッセージのトリガーは、Unica Campaign 統合ではサポートされていません。

モバイル・アプリ・メッセージの有効化 (プッシュ通知)

Acoustic Campaign がモバイル・アプリ・メッセージ (プッシュ通知) を送信できるようにするため、一回限りのセットアップ・タスクをいくつか実行する必要があります。

このタスクでは、その主要なステップの概要を示します。

1. IBM Provisioning により、Acoustic Campaign 組織のためのモバイル・アプリ・メッセージが有効にされません。
2. Acoustic Campaign 組織管理者が Acoustic Campaign ユーザーのためのモバイル・アプリ・メッセージ許可を付与します。
3. Acoustic Campaign ユーザーが、Engage UI で、1 つ以上のアプリ・キーを作成します。そのためには、Acoustic Campaign ユーザーは、モバイル・アプリ開発者から、iOS の場合は Apple の証明書、Android の場合は Google API キーが必要です。
4. モバイル・アプリ開発者は、SDK をダウンロードし、その SDK および Acoustic Campaign アプリ・キーを使用してアプリをビルドします。
5. Acoustic Campaign 組織管理者または Acoustic Campaign ユーザーは、モバイル・アプリ・メッセージのための、柔軟なデータベースを有効にします。これは、新しいデータベースか、または既存のデータベースです。

 **注:** 各 Acoustic Campaign 組織が使用できるモバイル・アプリ対応データベースは、1 つのみです。統合環境で E メール・チャンネル、SMS チャンネル、およびプッシュ・チャンネルを使用する場合は、チャンネルごとに別のデータベースを使用してください。

プッシュ: モバイル・プッシュ通知の作成および送信

Unica Campaign を使用して Acoustic Campaign からモバイル・プッシュ通知を送信するには、次の手順を実行します。


モバイル・プッシュを有効にしておく必要があります。[モバイル・アプリ・メッセージの有効化 \(プッシュ通知\)\(57 ページ\)](#) を参照してください。

モバイル・プッシュ通知を送信するためには、Unica Campaign と Acoustic Campaign の両方を使用する必要があります。

1. Acoustic Campaign を使用して、モバイル・アプリ・メッセージを作成します。

このステップは、以下のユーザーが協同して行う必要があります。

- 開発者
- 組織管理者
- マーケティング担当者

 **注:** モバイル・アプリ・メッセージのデータベースは、柔軟なデータベースでなければなりません。これは、固有 ID を持たないデータベースを意味します。モバイル・アプリ対応データベースは、組織ごとに 1 つしか使用できません。SMS も有効にした組織の場合は、SMS データベース 1 つとモバイル・アプリ・データベース 1 つを使用する必要があります。

2. レスponse・トラッキングをサポートするために、Acoustic Campaign のプッシュ・テンプレートの CampaignName 属性に、Unica Campaign 内で定義されているキャンペーン・コードと同じものを設定する必要があります。例:C000000518。

キャンペーン・コードとは、キャンペーンのグローバル・ユニーク ID のことです。

キャンペーン・コードは、Unica Campaign の「[キャンペーン一覧](#)」ページにリストされます。

3. Unica Campaign を使用して、キャンペーンを作成し、フローチャートを追加します。
4. Unica Campaign フローチャートにプッシュ・プロセスを構成します。

[プッシュ: Unica Campaign フローチャートでのプッシュ・プロセスの構成\(59 ページ\)](#) を参照してください。

5. Unica Campaign でテスト実行を実施します。

[プッシュ: テスト実行\(64 ページ\)](#) を参照してください。

6. Unica Campaign で実稼働実行を実施します。

[プッシュ: 実稼働実行\(65 ページ\)](#) を参照してください。

7. レスポンス・トラッキングを実行します。

[プッシュ: レスポンス・トラッキング\(67 ページ\)](#) を参照してください。

プッシュ: Unica Campaign フローチャートでのプッシュ・プロセスの構成

Unica Campaign と Acoustic Campaign が統合されている場合、フローチャートに「プッシュ」プロセスを構成して、Acoustic Campaign からモバイル・プッシュ通知を送信できます。

このタスクを実行する前に、以下の操作を実行する必要があります。

- Unica Campaign 内: マーケティング Unica Campaign を作成し、フローチャートを追加します。
- Acoustic Campaign 内: プッシュのテンプレートおよび本文を作成します。
- Acoustic Campaign ユーザーは Unica Campaign ユーザーに以下の情報を提供する必要があります。
 - Unica Campaign で生成されるコンタクト・リストのために使用する Acoustic Campaign データベースの名前。これは、メッセージの送信に使用する特定のプッシュ・チャンネル用のデータベースです。
 - Acoustic Campaign データベース表のフィールドのリスト。各フィールドのデータ・タイプ(テキスト、日付、時刻など)とデータ形式の例を含むもの。
 - Acoustic Campaign プッシュ・テンプレートの名前。
 - (フローチャートの実行時に) コンタクト・リストを新規作成するか、それとも既存のものを更新するか。
 - 既存のプッシュ名を新しい名前(例えば、メッセージの送信に使用されたフローチャートを示すもの)でオーバーライドするかどうか。
 - Unica Campaign フローチャートを実稼働モードで実行した場合にただちにプッシュ通知を送信するかどうか。

フローチャートには複数のチャンネル(Eメール、SMS、プッシュ)を含めることができますが、チャンネルごとに別のプロセスとして構成する必要があります。このトピックでは、Unica Campaign フローチャートでプッシュ・プロセス・ボックスを使用する方法について説明します。

注: プッシュ・メッセージを送信するには、プッシュ・プロセス・ボックスでメッセージの配信を構成するか、または IBM Marketing Cloud の送信エクスペリエンスを使用する必要があります。IBM Marketing Cloud プログラムによるプッシュ・メッセージのトリガーは、Unica Campaign 統合ではサポートされていません。



1. モバイル・プッシュ・キャンペーンで使用するセグメントを選択するためのプロセスをフローチャートに構成します。他のフローチャートと同様に、「選択」、「セグメント」、「マージ」などの複数のプロセスを使用できます。
2. フローチャートにプッシュ・プロセスを追加します。プッシュ・プロセスは、フローチャート内の最後のプロセスでなければなりません。
3. ステップ 1 で作成した少なくとも 1 つのプロセスを、入力としてプッシュ・プロセスに接続します。例:
 - 単一の選択プロセス (25 歳から 31 歳までのすべての男性など) をプッシュ・プロセスに接続します。
 - 複数の選択プロセス (高価値、中価値、および低価値のコンタクトなど) をプッシュ・プロセスに接続します。
 - 顧客を地理別のセグメントに分け、セグメントごとに別のプッシュ・プロセスに接続します (地域別にプッシュするために複数の固有のリストが生成されます)。
4. プッシュ・プロセスをダブルクリックして、「**プッシュ・プロセス構成**」ダイアログを開きます。
5. プッシュ・プロセスの「**Acoustic Campaign プロパティ**」タブを構成します。

「Acoustic Campaign プロパティ」タブ (プッシュ・プロセス)	
Acoustic Campaign データベース	必須。コンタクト・リストに関連付けられた、柔軟な Acoustic Campaign データベースを選択します。すべての共有 Acoustic Campaign データベースがリストされます。プッシュ・チャンネルに使用する柔軟なデータベースを選択する必要があります。 統合環境で E メール・チャンネル、SMS チャンネル、およびプッシュ・チャンネルを使用する場合は、チャンネルごとに別のデータベースを使用してください。
選択された入力セル	必須。モバイル・プッシュ通知を受信するセグメントを選択します。表示される入力セルは、プッシュ・プロセスに接続したプロセス・ボックス (「選択」、「セグメント」など) によって異なります。例えば、2 つの選択プロセスからプッシュ・プロセスに入力を提供する場合は、2 つの入力セルがリストされます。通常は、すべての入力セルを選択します。その後、選択したセルのすべての ID が、コンタクト・リストの作成に使用できるようになります。
すべて選択	リストされている入力セル (プッシュ・プロセスへの入力として接続されているセグメント) をすべて一括で選択します。
すべてクリア	選択のリストを素早くクリアします。
単一のコンタクト・リストを使用	プロセスが実行されるときに毎回同じコンタクト・リストを使用する場合は、「 単一のコンタクト・リストを使用 」を選択します。その後、Acoustic Campaign コンタクト・リストを選択します。リスト内のすべてのコンタクトが含まれます。 新規の実行でリストを再利用する前にリストからすべてのコンタクトを削除する場合は、「 コンタクト・リストを消去してから更新 」にチェック・マークを付けます。



「Acoustic Campaign プロパティ」 タブ (プッシュ・プロセス)	
	<p>以下のコントロールを使用して、後続の各実行でコンタクト・リストを更新する方法を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 常に新しいコンタクトを追加: 一致するコンタクトを更新しません。リストにないコンタクトが Unica Campaign データに含まれている場合は、それらをリストに追加します。 • 一致するコンタクトを更新します。見つからないコンタクトはスキップします: 既存のコンタクトを Unica Campaign のデータで更新します。新しいコンタクトはリストに追加されません。 • 一致するコンタクトを更新します。見つからないコンタクトを追加します: 既存のコンタクトを Unica Campaign のデータで更新します。リストにないコンタクトは追加されます。 <p>プロセス・ボックスのテスト実行や実稼働実行を行うと、コンタクト・リストが作成または更新されます。リスト内のすべてのコンタクトがプッシュに含まれます。</p>
実行するたびに新しいコンタクト・リストを作成	<p>プロセスを実行するたびに新しいコンタクト・リストを作成する場合は、「実行するたびに新しいコンタクト・リストを作成」を選択します。リスト内のすべてのコンタクトが含まれます。</p> <p>コンタクト・リストの「名前」を指定します。</p> <p>「サフィックスの追加」または「プレフィックスの追加」を選択して、タイム・スタンプをファイル名の先頭または末尾のどちらに含めるかを指定します。リスト名を固有にするために、必ず、プロセス実行のタイム・スタンプが追加されます。</p> <p>オプションで、ファイル名の一部として、キャンペーン ID またはプッシュのセル名、またはその両方を含めます。</p>

6. プッシュ・プロセスの「コンテンツのカスタマイズ」タブを構成します。

「コンテンツのカスタマイズ」タブ (プッシュ・プロセス)	
プッシュ・テンプレート	<p>必須。Acoustic Campaign のプッシュ・テンプレートを選択します。すべての共有テンプレートがリストされます。テンプレートによって、プッシュ通知の内容が決まります。このダイアログ・ボックスで変更を行わない場合、すべての内容がテンプレートからそのまま取り込まれます。ここで加えた変更は、テンプレートの内容をオーバーライドします。テンプレートには変更は保存されませんが、このプロセス・ボックスの現在の実行で送信されるプッシュ通知には、変更した内容が使用されます。</p>
プッシュ名	<p>必須。プッシュ名によって、Acoustic Campaign と Campaign でこのプッシュを識別します。指定した名前が、Acoustic Campaign テンプレートに指定されている「プッシュ名」の代わりに使用されます。プッシュとフローチャートの目的を示す名前にすると、後でわかりやすくなります。静的テキストのみを使用してください (変数は使用しないでください)。この名前は受信者には表示されません。</p>

「コンテンツのカスタマイズ」タブ (プッシュ・プロセス)	
	<p>レスポンス・トラッキングをサポートするために、プロセス実行時にプロセス実行のタイム・スタンプが名前に追加されます。これにより、すべてのプロセス実行のプッシュ名が固有になります。また、レスポンスをトラッキングするためにキャンペーン・コードも含まれます。この固有のプッシュ名は、Acoustic Campaign によって生成されるすべてのイベントに含まれるので、レスポンスの関連付けに使用されています。</p> <p> 注: 「プッシュ名」に使用できる最大文字数は 256 です。これには、付加されるタイム・スタンプ、および接頭部として追加されるキャンペーン・コードが含まれます。「プッシュ名」の文字数が 256 を超える場合は、ユーザーが入力した名前が切り捨てられます。</p>
プッシュ通知をただちにすべての連絡先に送信する	<p> 重要: このオプションを使用すると、Campaign で実稼働実行を行ったときにただちにプッシュ通知がすべての受信者に送信されます。先にテスト実行を行うことをお勧めします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「プッシュ通知をただちにすべての連絡先に送信する」オプションは、「プッシュ・テンプレート」を選択した場合にのみ使用可能です。 「プッシュ通知をただちにすべての連絡先に送信する」にチェック・マークを付けると、Campaign で実稼働実行を行ったときにプッシュ通知がすべての受信者に送信されます。(Campaign のテスト実行では、このオプションを選択するかどうかにかかわらず、プッシュは送信されません)。 プッシュの送信に Acoustic Campaign を使用したい場合は、このオプションのチェック・マークを外したままにします。このオプションにチェック・マークを付けない場合、Campaign で実稼働実行を行うと、コンタクト・リストが Acoustic Campaign にアップロードされますが、プッシュ通知は送信されません。その後、Acoustic Campaign からのプッシュを開始/スケジュールできます。

7. プッシュ・プロセスの「フィールド・マッピング」タブを構成します。

「フィールド・マッピング」タブ (プッシュ・プロセス)	
最新表示 	<p>選択した「Acoustic Campaign データベース」のテーブル・フィールド情報を最新表示します。新しいフィールドを Acoustic Campaign データベースに追加したり、既存のフィールドを変更したりした場合に、このオプションを使用してください。</p> <p> 重要: フィールド情報が変更された場合は、すべてのテーブル列マッピング情報が削除されます。最新表示が完了した後にすべてのフィールド・マッピングを確認する必要があります。</p>
候補フィールド	このリストには、プッシュ・プロセスに入力を提供するプロセスのフィールドがすべて表示されます。これらは、Campaign のデータベースまたはフラット・ファイルに

「フィールド・マッピング」タブ (プッシュ・プロセス)	
	格納されている、コンタクト名、住所、人口統計、購入履歴などの情報のデータを含む Campaign のフィールドです。
Acoustic Campaign にエクスポートするフィールド	<p>このリスト内のフィールドは、Acoustic Campaign コンタクト・リストを作成または更新するためのデータを提供します。Campaign のデータベースまたはフラット・ファイルから、マップされたフィールドの値が取得されます。</p> <p>Campaign の候補フィールドを Acoustic Campaign にエクスポートするフィールド にマップする場合、マップ対象のフィールドで、テキスト、日付、時刻など、同じフィールド・タイプ (データ・タイプ) が使用されていることを確認します。データ・タイプが一致しない場合、システムが候補フィールドの値をマップ対象の Acoustic Campaign データベース・フィールドにインポートしようとしたときにエラーが発生します。</p> <p>このリスト内のフィールドの順序が Acoustic Campaign のコンタクト・リスト内のフィールドの順序と一致するようにしてください。矢印アイコンを使用して、選択したフィールドをリスト内で上下に移動できます。例えば、「名」を「姓」の前に移動したりします。注: このリストのフィールドの順序によって、コンタクト・リストを作成するために生成されるコンマ区切り値 (CSV) ファイルのフィールドの順序が決まります。</p> <p>特定のレコードのフィールド値が欠落していると、コンタクト・リストの該当するフィールドが空になります。言い換えると、コンタクト・リストの作成に使用されるコンマ区切り値 (CSV) ファイルの該当するフィールドにデータが取り込まれません。</p> <p>マッピングが完了したら、同期フィールドとして使用する 1 つまたは複数のフィールドの「同期」列にあるチェック・マーク <input checked="" type="checkbox"/> をクリックします。同期フィールドを選択しない場合は、デフォルトで campaignaudienceld が同期フィールドとして使用されます。</p>
同期	<p>「Acoustic Campaign にエクスポートするフィールド」リストで、Acoustic Campaign 側の固有のモバイル・ユーザー ID を示す「同期」列のフィールドにチェック・マーク (1 つ以上) を付けます。例えば、携帯電話番号フィールドを使用します。</p> <p>プッシュには、Acoustic Campaign の柔軟なデータベースが使用されます。このデータベースのデータを更新するときには、「同期」に指定したフィールドが 1 次キーとして扱われ、「同期」フィールドの列と一致する行が更新されます。例えば、「携帯電話」が「同期」フィールドである場合、「同期」フィールドの条件と一致する行が更新されます。</p>
プロフィール	これを使用して、Campaign のデータベース・フィールドに保管されている実際の値を確認できます。そのためには、「選択フィールド」を選択し、「プロフィール」をクリックします。すべての値を確認できるように、プロフィールの作成が完了するまで待ってください。例えば、「姓」というフィールドのプロフィールを作成すると、そのフィールドに保管されている名前のリストが表示されます。

「フィールド・マッピング」タブ (プッシュ・プロセス)	
ユーザー定義フィールド	オプションで、「ユーザー定義フィールド」ボタンをクリックして、照会、セグメント化、ソート、計算、またはテーブルへの出力提供に使用する新しい変数を作成します。ユーザー定義フィールドは、データ・ソースには存在しない変数であり、1つ以上の既存のフィールド (データ・ソースが異なる場合でも) から作成されます。

8. プッシュ・プロセスの「全般」タブを構成します。

「全般」タブ (プッシュ・プロセス)	
プロセス名	記述名を割り当てます。プロセス名は、フローチャートでボックス・ラベルとして使用されます。また、さまざまなダイアログやレポートでプロセスを識別するためにも使用されます。この名前は顧客には表示されません。
Note	このプロセスの目的や結果をわかりやすく伝える情報を提供します。フローチャート内のプロセス・ボックス上にカーソルを置くと、このフィールドの内容が表示されません。この注記は顧客には表示されません。

9. 「OK」をクリックして、構成ダイアログを保存して閉じます。
 10. フローチャートを保存します。

これで、テスト実行のための準備が整いました。[プッシュ: テスト実行\(64 ページ\)](#) を参照してください。テスト実行は、世界中に通知を送信する前にその通知が適切に構成されていることを確認する機会であるため、重要です。

プッシュ: テスト実行

このタスクは、Unica Campaign を使用して Acoustic Campaign からモバイル・プッシュ通知を送信する場合のタスクです。実稼働実行に取りかかる前にテスト実行を行うことは大切です。

⚠ 重要: テスト実行の実施については、IBM Marketing Cloud の資料を参照してください。このトピックでは、プロセスの一部 (Unica Campaign から Acoustic Campaign へのテスト) についてのみ説明します。

テスト実行は、通知を顧客に送信する前にその通知が適切に構成されていることを確認する機会であるため、極めて重要です。


通常は、Unica Campaign フローチャートでプッシュ・プロセスの構成が完了したら、テスト実行を実施します。

このテスト実行の目的は、Unica Campaign と Acoustic Campaign の連携を確認し、Acoustic Campaign で通知をいくつか抜き取り検査することです。


Unica Campaign のテスト実行で本番のプッシュが顧客に送信されることはありません。「**プッシュ通知をただちにすべての連絡先に送信する**」(プッシュの構成ダイアログ) にチェック・マークを付けた場合でも同じです。

! **要確認:** 実稼働実行を実施する前に、必ず、テスト実行を実施してください。

1. Unica Campaign を使用して、構成したプッシュ・プロセスが含まれているフローチャートを (編集モードで) 開きます。
2. テスト実行の対象を数レコードだけに制限します。この制限は、テスト実行が完了した後に解除します。

 **注:** この手順は推奨されていますが必須ではありません。

テスト実行を制限しないと、テスト実行の際にコンタクト・リスト全体が Acoustic Campaign に送信されます。これは不要であり、時間がかかります。

- a. プッシュ・プロセスに入力を提供するプロセス・ボックスをダブルクリックします。例えば、選択プロセスをプッシュ・プロセスに接続した場合は、その選択プロセスの構成ダイアログを開きます。
 - b. 「セル・サイズの制限」タブを選択します。
 - c. 「テスト実行時の出力セル・サイズ上限」の「出力セル・サイズの上限指定」オプションを使用して、レコードの数を制限します。通常、テスト実行では5個か10個のレコードで十分です。
3. フローチャートを保存します。
 4. 「実行」メニュー  を開き、「テスト実行」のいずれかのオプションを使用して、フローチャート、ブランチ、またはプロセスのテスト実行を実施します。

コンタクト・リストが Acoustic Campaign に送信されますが、プッシュ通知は送信されません (「プッシュ通知をただちにすべての連絡先に送信する」を選択したかどうかは関係ありません)。

5. Acoustic Campaign を使用して通常どおりプッシュをテストし、通知の内容とコンタクト・リストが正しいことを確認します。

Unica Campaign で選択したすべての内容が Acoustic Campaign に正確に反映されていることを確認してください。例:

- Unica Campaign でプッシュ名を変更した場合は、変更された名前が Acoustic Campaign に表示されることを確認します。
- Acoustic Campaign のコンタクト・リストに、Unica Campaign の必要なフィールドがすべて含まれていることを確認します。
- Unica Campaign で選択した内容に基づいてコンタクト・リストが作成または更新されたことを確認します。

! **重要:** Acoustic Campaign の資料のすべての手順に従って、プッシュが適切に作成されたこと、およびプッシュを実施するためのすべての要件を満たしていることを確認します。例えば、オプトインおよびオプトアウトが適切に処理されることを確認します。

エラーが発生した場合は、解決してからテスト実行を再実施します。テスト実行が成功したことを確認したら、実稼働実行を実施できます。[プッシュ: 実稼働実行\(65 ページ\)](#) を参照してください。

プッシュ: 実稼働実行


このタスクは、Unica Campaign を使用して Acoustic Campaign から SMS プッシュ通知を送信する場合のタスクです。

実稼働実行を実施する前に、必ず、テスト実行を行ってください。 [プッシュ: テスト実行\(64 ページ\)](#) を参照してください。

フローチャートに複数のチャンネルが含まれている場合は、すべてのチャンネル (SMS、プッシュ、E メール) のテスト実行が完了するまで、フローチャート全体の稼働実行は行わないでください。

稼働実行を行うと、Unica Campaign から Acoustic Campaign にコンタクト・リストがアップロードされます。「**プッシュ通知をただちにすべての連絡先に送信する**」ようにプッシュ・プロセスを構成した場合は、リスト内のすべてのコンタクトに通知が送信されます。このオプションを選択しなかった場合、通知は送信されないため、Acoustic Campaign でプッシュをスケジュールする必要があります。

稼働実行では、Unica Campaign フローチャートで選択されたオーディエンス・セグメントにプッシュ通知が送信されます。

1. Unica Campaign で、構成したプッシュ・プロセスが含まれているフローチャートを (編集モードで) 開きます。
2. 選択されたすべてのコンタクトにプッシュをただちに送信するかどうかについて最終的に決定します。プッシュ・プロセスをダブルクリックして、構成ダイアログを開きます。「**コンテンツのカスタマイズ**」タブを選択して、以下のように選択を行います。
 - 稼働モードでフローチャートを実行してすぐにプッシュを送信する場合は、「**プッシュ通知をただちにすべての連絡先に送信する**」にチェック・マークを付けます。
 - Acoustic Campaign でプッシュをスケジュールする場合は、「**プッシュ通知をただちにすべての連絡先に送信する**」をクリアします。コンタクト・リストが Acoustic Campaign に送信されますが、プッシュは送信されません。
3. フローチャートを保存します。
4. 「**実行**」メニュー  を開き、「**保存して実行**」のいずれかのオプションを選択し、選択したプロセス、ブランチ、またはフローチャートの稼働実行を行います。あるいは、Unica Marketing Platform スケジューラーを使用して、フローチャートをスケジュールします。

Unica Campaign から Acoustic Campaign にコンタクト・リストが送信されます。「**プッシュ通知をただちにすべての連絡先に送信する**」を選択した場合は、コンタクト・リスト内のすべての受信者に通知がただちに送信されます。

コンタクト・リストが Acoustic Campaign にアップロードされると、プッシュ・プロセス・ボックスで定義された「**フィールド・マッピング**」に基づき、Unica Campaign フィールドの値を使用して、Acoustic Campaign データベースの対応するフィールドが更新されます。例えば、(Unica Campaign の) `FirstName` フィールドを Acoustic Campaign の `CustomerFirstName` フィールドにマップした場合、Acoustic Campaign は、新たに更新された `CustomerFirstName` フィールドを使用してプッシュ・テンプレートにデータを設定します。

プッシュ・プロセス・ボックスの「**プッシュ通知をただちにすべての連絡先に送信する**」にチェック・マークを付けた場合は、Acoustic Campaign に移動し、プッシュが正しく送信されたことを確認してください。

「**プッシュ通知をただちにすべての連絡先に送信する**」にチェック・マークを付けなかった場合は、Acoustic Campaign のコンタクト・リストは更新されていますが、プッシュは送信されていません。Acoustic Campaign を使用してプッシュをスケジュールまたは送信する必要があります。

プッシュ: レスポンス・トラッキング

Unica Campaign と Acoustic Campaign の統合によって実行されるレスポンス・トラッキングにより、マーケティング担当者はレスポンスと非レスポンスについて、対象者としてのその設定を再調整することができます。

レスポンス・トラッキングをサポートするための前提条件

- UBX Toolkit がインストールされ、構成されていること。
- UBX Toolkit ユーザーが必要なレスポンス・トラッキング・テーブルを作成していること。
- Unica Campaign 管理者がテーブルをユーザー・データ・ソースとして構成していること。

トラッキングの仕組み

Acoustic Campaign は、モバイル・プッシュの送信、配信、およびレスポンスについての情報を記録します。この情報は UBX に提供されます。

UBX から Unica Campaign に情報を取得するには、UBX Toolkit スクリプトを実行して、イベント・データをダウンロードし、レスポンス・トラッキング・テーブルにインポートします。

そして、それらのテーブルをユーザー・データ・ソースとして Unica Campaign フローチャートで利用できます。

組織によっては、管理者がセットアップしたスクリプトによって、レスポンス・データのルーティングが自動化されている場合があります。スクリプトが Unica Campaign リスナー (Analytics) サーバー上にある場合は、スクリプトを実行するトリガーを呼び出すフローチャートを作成し、Unica Marketing Platform スケジューラーを使用してトリガーをスケジュールすることができます。スケジューラーでも外部スクリプトを実行できるため、この方法を使用することもできます。

レスポンス・ルーティングが自動化されていない場合は、スクリプトを定期的に手動で実行する必要があります。

レスポンスを特定のメール配信および Unica Campaign に関連付ける処理は、統合環境によって行われます。Unica Campaign は各プッシュに固有の名前を割り当てます。その固有の名前は Unica Campaign との関連付けのために Acoustic Campaign イベントに含められます。固有の名前は、フローチャート上でプロセス・ボックスに割り当てたプッシュ名に基づいて生成されます。

トラッキングされるイベント

以下のプッシュ・イベントについての情報をレスポンス・トラッキング・テーブルにインポートし、Unica Campaign で利用することができます。


- アプリケーションのインストール (appInstalled): モバイル・デバイスで行われた個々のモバイル・アプリのインストール操作についての情報。アプリがインストールされると、アプリ登録情報を受け取ります。
- アプリケーションのアンインストール (appUninstalled): モバイル・デバイスで行われた個々のアプリの削除操作についての情報。アプリにプッシュが到達しなくなったことが、Apple または Google から IBM に通知されます。一般には、モバイル・アプリがアンインストールされたことが原因です。
- アプリケーションのオープン (appOpened): モバイル・ユーザーが単純通知をクリックしてアプリを開いたときの状況についての情報。

- アプリケーションのクリック (urlClicked): モバイル・ユーザーが単純通知のボタンをクリックしてモバイル OS に対象の URL を渡したときの状況についての情報。一般には、これは、ユーザーがモバイル・デバイスでブラウザを開いたときに相当します。
- アプリケーション通知プッシュの有効化 (uiPushEnabled): APNS ユーザーがモバイル・アプリを使用してプッシュ通知の受信をオプトインしたときの状況についての情報。
- アプリケーション通知プッシュの無効化 (uiPushDisabled): APNS ユーザーがアプリケーション設定を使用してプッシュ通知の受信をオプトアウトしたときの状況についての情報。
- アプリケーション・セッションの開始 (sessionStarted): モバイル・ユーザーが一定の期間 (分単位で構成可能) において初めてアプリケーションを開いたときの状況についての情報。
- アプリケーション・セッションの終了 (sessionEnded): モバイル・ユーザーのセッションが終了したときの情報。

マーケット担当者がこれらのテーブルにデータを取り込んで使用する方

UBX からイベントを定期的にダウンロードし、ローカルのレスポンス・トラッキング・テーブルにインポートする必要があります。スクリプトは手動で実行するか、スケジュールされたジョブとして実行できます。

1. イベントをダウンロードするには、UBX Toolkit に付属している eventsDownload スクリプトを実行します。

 **注:** eventsDownload スクリプトは、Eメール、SMS メッセージ、およびモバイル・プッシュ通知に関連したトラッキング・データをダウンロードします。これらの機能については、すべてを使用している場合もあれば、そうでない場合もあるでしょう。

2. ダウンロードしたイベントをレスポンス・トラッキング・テーブルにインポートするには、UBX Toolkit に付属している eventsImport スクリプトを実行します。
3. UBX Toolkit の資料に記載されているすべての指示に従ってください。特に、「Chapter 3. Event destination endpoints」を参照してください。
4. テーブルにデータが取り込まれたら、Unica Campaign フローチャートでそれらのテーブルを利用して、レスポンスと非レスポンスについて、対象者としてのその設定を再調整できます。

通常は、レスポンス・フローチャートを設計し、レスポンス・トラッキング・テーブルからデータを読み取るためのプロセス・ボックスを構成します。例えば、アプリケーションを開いたユーザーをターゲットにするように「選択」または「抽出」プロセス・ボックスを構成できます。

5. 詳細については、[統合のレスポンス・トラッキング・テーブル\(68 ページ\)](#)を参照してください。

統合のレスポンス・トラッキング・テーブル

Campaign と Acoustic Campaign の統合をサポートするため、Eメール、SMS、およびプッシュの各イベントに対するユーザー・レスポンスについてのデータを、レスポンス・トラッキング・テーブルに格納することが必要です。

テーブルの用途は何か?

Acoustic Campaign メール配信の結果として、クリックやバウンスなどのレスポンス・イベントが発生します。これらのイベントは Acoustic Campaign から UBX に流れ、UBX Toolkit を使用して Campaign にダウンロードされます。イベントが Campaign にダウンロードされた後、Campaign がイベント・データにアクセスできるようにする

ため、それらをテーブルにインポートする必要があります。イベント・データがテーブルにインポートされたなら、それらのテーブルは、Campaign フローチャートの中でユーザー・データ・ソースとしての役割を果たすことが可能です。

テーブルはどのように作成されるか?

テーブルは、統合の構成担当者により UBX Toolkit を使用して作成されます。これは、1 回限りのセットアップ操作です。詳しくは、[統合のためのレスポンス・トラッキング・テーブルの作成\(27 ページ\)](#) を参照してください。

テーブルのデータはどのように設定されるか?


テーブルのデータは、UBX Toolkit に付属の eventsDownload スクリプトおよび eventsImport スクリプトを誰かが実行するたびに設定されます。

それらのスクリプトは、手動で実行するか、またはスケジュール・ジョブとして実行できます。詳しくは、使用している機能に該当するトピックを参照してください。

- [Eメール: レスポンス・トラッキング\(43 ページ\)](#)
- [SMS: レスポンス・トラッキング\(55 ページ\)](#)
- [プッシュ: レスポンス・トラッキング\(67 ページ\)](#)

レスポンスはどのようにトラッキングされるか?

Campaign と Acoustic Campaign の間のレスポンス・トラッキングが可能なのは、各メール配信に固有の名前が付いているからです。この固有名は、Acoustic Campaign によって生成されるすべてのイベントに含まれるので、レスポンスの関連付けに使用されています。統合では、これが自動的に行われます。

 **注:** すべてのキャンペーン・イベント・テーブルの EventNameSpace 列および EventVersion 列の値は NULL です。

レスポンスとコンタクトのマッピング

Unica Campaign と IBM Engage を統合すると、コンタクトとレスポンスのマッピングがデフォルトで定義されます。

コンタクトのマッピング

コンタクトのマッピングは変更できません。

表 3. Unica Campaign と IBM Engage のコンタクトのマッピング

タイプ	Unica Campaign	IBM Engage
コンタクトのタイプ	キャンペーン送信 (ContactStatusID - 1)	EmailSend
コンタクトのタイプ	未配信 (ContactStatusID - 3)	EmailBounce

レスポンスのマッピング

Unica Campaign と IBM Engage を統合すると、レスポンスのマッピングが `UA_CampaignEngageResponseMap` テーブルで定義されます。レスポンスのマッピングは、必要に応じて編集できます。

表 4. Unica Campaign と IBM Engage のレスポンスのマッピング

タイプ	CampaignEventType	EngageEventType
レスポンスのタイプ	Link click (ResponseTypeID - 9)	EmailClick
レスポンスのタイプ	Explore (ResponseTypeID - 1)	EmailOpen

イベントとして使用可能な E メール・トラッキング・データ

UBX Toolkit から Unica Campaign にダウンロード可能な E メール・トラッキング・データのリストを、以下の表に示します。

Engage では、E メール・メッセージングのためのトラッキング・データを提供する特定の E メール・イベントがサポートされています。Engage では、このデータが UBX イベントとして使用可能になります。UBX Toolkit を使用してイベント・データを Unica Campaign にダウンロードし、それをレスポンス・トラッキング・テーブルにロードして、Unica Campaign がコンシュームできるようにします。「**イベント名**」は、メーリングに応じて異なる場合があります。「**イベント・コード**」は、正確にここに示されているとおりにトラッキング・データ中に表示されなければなりません。

「Mailing - sent」イベントおよび「Mailing - bounced」イベントからの情報は、詳細コンタクト履歴にデータを取り込むために処理されます。これらのイベントは、`audienceID` に基づいて、さまざまなオーディエンス・レベルの履歴テーブル用に処理されます。

「Mailing - open」イベントおよび「Mailing - clicked」イベントからの情報は、レスポンス履歴にデータを取り込むために処理されます。これらのイベントは、`audienceID` に基づいて、さまざまなオーディエンス・レベルの履歴テーブル用に処理されます。

メール配信 - オプトアウト・イベントからの情報。WCA ユーザーは、WCA メール配信からオプトアウトするためのオプトアウト・リンクを E メールで受け取ることができます。このイベントは、現在 UBX 経由で Unica Campaign によって追跡されます。メール配信オプトアウト・イベント (`emailOptOut`) は、Unica Campaign システム・データベースの `UA_EMAILOPTOUT` という新しいテーブルで追跡されます

WCA からの Eメールのオプトアウト要求 - Eメールのオプトアウト・イベントを追跡するには、Eメールのオプトアウト要求というタイプの「Eメールのオプトアウト」ハイパーリンクを含む Eメール・テンプレートが必要です。オプトアウト・イベントの完全なフローは次のとおりです。1. ユーザーはオプトアウト・リンク付きの Eメールを受け取ります。2. ユーザーはオプトアウト・リンク付きの Eメールを開いて、リンクをクリックします。3. WCA への返信メール・メッセージが開きます。ユーザーはこれを WCA に送り返す必要があります。4. この Eメールが送信されると、各コンタクトは WCA データベースで「オプトアウト済み」とマークされます。5. WCA はメール配信オプトアウト・イベント (`emailOptOut`) を UBX に発行します。6. Unica Campaign は UBX に発行されたイベントを Unica Campaign システム・テーブル「`UA_EMAILOPTOUT`」にダウンロードします。注: 現時点では、`emailOptOut` イベントは Unica Campaign コンタクト/詳細履歴テーブルおよびレスポンス履歴テーブルに対する ETL に含められません。オプターのトラッキング・コードは Eメール・オプトアウト・イベントにデータを取り込みません。

以下のイベントが ETL ツールによってピックアップされ、履歴テーブルに転送されます。

- 詳細コンタクト履歴にデータを取り込む「Mailing - sent」 イベントおよび「Mailing - bounced」 イベント。
- レスポンス履歴にデータを取り込む「Mailing - open」 イベントおよび「Mailing - clicked」 イベント。

表 5. UBX による E メール・トラッキング・イベント

イベント名	イベント・コード	Unica Campaign システム・テーブル
メーリング - 送信	emailSend	UA_EmailSend
メーリング - 開く	emailOpen	UA_EmailOpen
メーリング - クリック	emailClick	UA_EmailClick
メーリング - バウンス	emailBounce	UA_EmailBounce
メール配信 - オプトアウト済み	emailOptOut	UA_EmailOptOut

イベントとして使用可能な SMS トラッキング・データ

UBX Toolkit から Unica Campaign にダウンロード可能な SMS トラッキング・データのリストを、以下の表に示します。

Engage では、トラッキング・データを提供する特定の SMS イベントがサポートされています。Engage では、このデータが UBX イベントとして使用可能になります。UBX Toolkit を使用してイベント・データを Unica Campaign にダウンロードし、それをレスポンス・トラッキング・テーブルにロードして、Unica Campaign がコンシュームできるようにします。「イベント名」は、プログラムに応じて異なる場合があります。「イベント・コード」は、正確にここに示されているとおりにトラッキング・データ中に表示されなければなりません。

表 6. UBX による SMS トラッキング・イベント

イベント名	イベント・コード	Unica Campaign システム・テーブル
SMS - SMS プログラムから送信	sentSMS	UA_SentSMS
SMS - SMS プログラムとの対話	interactedSMS	UA_InteractedSMS

イベントとして使用可能なモバイル・プッシュ・トラッキング・データ

UBX Toolkit から Unica Campaign にダウンロード可能なモバイル・プッシュ・トラッキング・データのリストを、以下の表に示します。

Engage では、トラッキング・データを提供する特定のモバイル・プッシュ・イベントがサポートされています。Engage では、このデータが UBX イベントとして使用可能になります。UBX Toolkit を使用してイベント・データを Unica Campaign にダウンロードし、それをレスポンス・トラッキング・テーブルにロードして、Unica Campaign がコンシュームできるようにします。

バージョン 10.0.0.1 以降にアップグレードした環境で Unica Campaign の組み込み機能を使用して UBX に接続する場合は、UBX のイベントが Unica Campaign に直接ダウンロードされます。

「イベント名」は、メーリングに応じて異なる場合があります。「イベント・コード」は、正確にここに示されているとおりにトラッキング・データ中に表示されなければなりません。

表 7. UBX によるモバイル・プッシュ・トラッキング・イベント

イベント名	イベント・コード	Unica Campaign システム・テーブル
モバイル・アプリ - インストール	appInstalled	UA_App_Installed
モバイル・アプリ - アンインストール	appUninstalled	UA_App_Uninstalled
モバイル・アプリ - プッシュ通知を開く	appNotificationOpen actionTaken = app	UA_SimpNot_appOpened
モバイル・アプリ - URL をクリック	appNotificationOpen actionTaken = url	UA_SimpNot_URLClicked
モバイル・アプリ - プッシュ通知を有効にする	appPushEnabled	UA_App_UIPushEnabled
モバイル・アプリ - プッシュ通知を無効にする	appPushDisabled	UA_App_UIPushDisabled
モバイル・アプリ - セッション開始	appSessionOpen	UA_App_SessionStarted
モバイル・アプリ - セッション終了	appSessionClose	UA_App_SessionEnded

統合データベース・テーブル、ETL、およびパーティショニング

Campaign と Engage の統合により、Campaign が監査とトラッキングのために使用するデータベース表にデータが設定されます。照会用にデータをどれだけの時間保持する必要があるかについては、データベース管理者にお問い合わせください。ご使用のアカウントでのアクティビティの量に応じて、時間の経過とともにテーブルは大きくなっていくことがあります。

どの統合テーブルにも共通の特性がいくつかあります。

- 1次キーは、ID または順序列です。1次キーの ID は、行が挿入された順序を反映しています。
- テーブルには、特定のイベントが発生した時刻を示す日時/タイム・スタンプの列があります。
- 各テーブルの行は 1 度挿入され、最初に挿入された後は統合によりそれらが更新されることはありません。
- 1次キー以外で、事前定義された索引、外部キー、チェック制約はありません。

受信者 E メール・アドレスを Unica Campaign のオーディエンス・レベルとして使用していない場合、トラッキング・テーブルに 1 つ以上の列を追加することができます。しかし、データには、オーディエンス・レベルからコンタクト情報を検索するための手段が含まれていなければなりません。それらの列の値を Engage データベースからダウ

ンロードするよう、統合を構成する必要があります。列を追加する際、固有索引や制約はいずれも使用しないようにしてください。データを挿入できなくなる可能性があるためです。

テーブルのページとアーカイブは、統合によって自動的に実行されません。管理者は、データのアーカイブまたはページのスケジュールを立てることができます。典型的なページ・スキームとして、日時/タイム・スタンプのフィールドに対して範囲パーティショニングをセットアップし、月ごとまたは四半期ごとにパーティションを設定することが考えられます。ページ・プランとして、パーティションが古くなった時点でそれをドロップすることができます。しかし、データのページとパーティショニングの戦略は、データベースの機能やパフォーマンス特性の違いに影響されます。データの照会方法もその戦略に影響する可能性があります。

Engage ETL は Unica Campaign Web アプリケーション上で実行されるので、クラスター・ユーザーは JVM オプション `-Dengage.etl.disabled=true` を指定して個々のノードで Engage ETL の実行を制御できます。 `-Dengage.etl.disabled=true` の場合、指定されたクラスター・ノードでは Engage ETL は機能しません。

イベント・タイプ

トラッキング・テーブルは、さまざまなタイプのメッセージ・レスポンスについて記述するためのデータを提供します。レスポンスのタイプは、イベント・タイプとして考慮されます。

トラッキング・テーブルには、以下のイベント・タイプのための値が含まれています。

イベント・タイプ	有効値
開く	0
閲覧	1
クリックストリーム	2
変換	3
添付ファイル	4
メディア	5
転送	6
オプトイン	7
オプトアウト	8
乱用の返信	10
アドレス変更の返信	11
メール・ブロックの返信	12
メール制限の返信	13
その他の返信	14
抑止	15
送信	16

イベント・タイプ	有効値
ソフト・バウンス	98
ハード・バウンス	99

レポート ID

IBM Engage レポート ID がトラッキング・テーブルに表示されます。

多くの場合、IBM Engage の集約マーケティング・レポートは、「レポート」 > 「レポート機能」で見つけることができます。生のレポート/個々のレポートは、「レポート機能」 > 「単一マーケティング・レポート」で見つけてエクスポートすることができます。

ダウンロードしたデータには、レポート ID が含まれています。

レポート ID は、マーケティングのタイプに応じてさまざまな方法で割り当てられます。

- 個々の 1 回限りのマーケティングの場合、単一のレポート ID が生成されます。
- イベント・ドリブン自動応答機能の場合、ある 1 日のあらゆるマーケティングに単一のレポート ID が関連付けられます。
- 繰り返しされる自動化メッセージまたはプログラム・マーケティングの場合、マーケティングの各オカレンスに単一のレポート ID が関連付けられます。
- 標準マーケティングの場合、レポート ID とマーケティング ID の間に 1 対 1 の関係があります。

連絡抑止の理由

Engage は、さまざまな理由で特定のアドレスにメッセージを送信しないことがあります。

Engage がメッセージを抑止する場合、Engage からダウンロードされるデータの中に、その理由が含まれています。Engage から提供される連絡抑止の理由には、以下のものがあります。

抑止の理由	有効な値
システム E メール・ドメインが無効	1
システム E メール・ローカルが無効	2
組織 E メール・ドメインが無効	3
組織抑止リスト	4
グローバル抑止	5
組織 E メール・ローカルが無効	6
頻度制御	7
データベース・レベル抑止	8
照会レベル抑止	9
マーケティング・レベル抑止	10

レスポンス・トラッキング・テーブルのデータの消去

データベースのスペースを解放するために、ETL で処理された行をアーカイブに保存したり消去したりする作業を定期的に実施できます。

イベントがダウンロードされると、以下のテーブルに取り込まれます。

- UA_EmailSend
- UA_EmailOpen
- UA_EmailClick
- UA_EmailBounce
- UA_EmailOptOut
- UA_EngageEtlTracker

UA_EngageEtlTracker は、処理された行を追跡管理するためのテーブルです。このテーブルには、EventType と LastProcessedRecordId の情報が入っています。

- EMAIL_SEND_EVT_CODE = 1;
- EMAIL_OPEN_EVT_CODE = 2;
- EMAIL_CLICK_EVT_CODE = 3;
- EMAIL_BOUNCE_EVT_CODE = 4;
- EMAIL_OptOut_EVT_CODE = 5;

以下の行をアーカイブに保存したり消去したりできます。

- Select * from UA_EmailSend where RecordID <= (select LastProcessedRecordId from UA_EngageEtlTracker where EventType = 1)
- Select * from UA_EmailOpen where RecordID <= (select LastProcessedRecordId from UA_EngageEtlTracker where EventType = 2)
- Select * from UA_EmailClick where RecordID <= (select LastProcessedRecordId from UA_EngageEtlTracker where EventType = 3)
- Select * from UA_EmailBounce where RecordID <= (select LastProcessedRecordId from UA_EngageEtlTracker where EventType = 4)
- Select * from UA_Emailoptout where RecordID <= (select LastProcessedRecordId from UA_EngageEtlTracker where EventType = 5)

バージョン 11.1 以降、ETL が有効化されている場合、コンタクトおよびレスポンス・トラッキング・テーブルからの Unica Campaign-UBX 統合データは、処理されて詳細コンタクト履歴およびレスポンス履歴にデータが取り込まれた後、自動的に消去されます。ETL がコンタクト/レスポンス・レコードを処理する際、トラッキング・コードと externalsystemrefranceid が比較され、各レコードのステータスが UA_EngageEtlRecordStatus テーブルに記録されます。


イベントのダウンロードと処理でのマルチスレッドの実装

Unica Campaign バージョン 11.1 以降を使用している場合、Unica Campaign への UBX イベントのダウンロードと ETL 処理にマルチスレッドが使用されます。Unica Campaign と UBX の統合には、2 つの操作フェーズが含まれます。

- Engage によって UBX に発行されたイベントをプルして、それらをコンタクト/レスポンス・トラッキング・テーブルに入れます。
- コンタクト/レスポンス・トラッキング・テーブルを処理 (ETL) して、イベントに従って詳細コンタクト履歴およびレスポンス履歴にデータを取り込みます。

11.1 リリースより前は、これらの操作に 2 つのメイン・スレッドのみが使用されていました。1 つ目のスレッドは UBX からデータの読み取ってイベント・トラッキング・テーブルにデータを取り込むために使用され、2 つ目のスレッドは、イベント・トラッキング・テーブルからデータを読み取って、詳細コンタクト履歴およびレスポンス履歴にさまざまなイベントのデータを取り込むために使用されていました。

11.1 では、10 個のスレッドで UBX からイベントをダウンロードしてデータを取り込んだ後、10 個の並列スレッドで E メール送信などのコンタクト・トラッキング・イベントを処理し、別の 10 個のスレッドで E メール・バウンス、E メール・クリック、E メールを開くなどのレスポンス・トラッキング・イベントを処理します。この並列処理により、統合パフォーマンスが大幅に向上します。

 **注:** 複数のスレッドを作成するため、これらのスレッドを実行するのにより多くの CPU およびメモリーが Unica Campaign アプリケーション・サーバーで利用されます。